

那賀町SS過疎地対策計画

令和2年2月

徳島県那賀町

目次

はじめに	… 2
計画策定フロー	… 3
1. 地域の現状	… 4
2. 地域の燃料供給体制の現状	…13
3. 地域の燃料需要及びニーズ	…16
4. 那賀町における燃料供給体制維持方策	…33
5. 燃料供給体制維持のアクションプラン	…44

はじめに（地域の概況と計画策定の背景）

●地勢

那賀町は、徳島県の南部に位置し、東は阿南市、西は高知県、南は海部郡、北は勝浦郡神山町、美馬氏、三次市に隣接している。地域の北西部には四国山地、南部には海部山脈などを配しており、標高1000m級の山々に囲まれ、地域の9割以上が森林の中山間地域となっている。

地域内には那賀川及び坂州木頭川が流れ、両河川は旧上那賀町内で合流して地域のほぼ中央を西から東に還流している。那賀町の面積は約695km²で、徳島県の総面積の約17%を占める。

冬は寒冷で、朝晩の気温は氷点下になることもある。多雨地域であり、台風襲来時には豪雨に見舞われることも多い。平成17年3月に、鷲敷町・相生町・上那賀町・木沢村・木頭村の丹生谷（にゅうだに）5町村が合併し、現在の那賀町が発足している。

●燃料供給の現状と課題

那賀町は、居住地から15km以内にSSが存在しない地域を含むSS過疎地である。現在、町内に11箇所のSSがあるが、近い将来廃業を予定しているSSも見られており、人口減少や燃費向上、エネルギー転換などのさらなる進展にともなう燃料需要の減少が見通される中、将来を見据えた燃料供給体制の見直し・構築が必要となっている。

●計画策定の趣旨と背景

当町では、山間地域に小規模集落が点在していることから、既存の集約的な燃料供給拠点の形成は不向きである一方、主力産業である林業では多くの機械がガソリンを燃料していることや、多雨地域として豪雨災害時に孤立する集落が発生する可能性もあることから、これらの地域特性を踏まえながら、小規模分散的な燃料供給体制の維持方策について、多角的な検討・検証を行うことが必要となっている。

計画策定に向けた調査・検討

1. 地域の現状把握

- ・人口、産業

2. 町内の燃料供給体制の現状把握

- ・SSの立地状況
- ・町内SSの営業状況（事業者ヒアリング）

3. 地域の燃料需要及びニーズの把握

- ・町民の燃料購入状況、課題・ニーズ（町民アンケート）
- ・町内の燃料需要（想定需要量推計）
- ・災害対応燃料需要量

4. 燃料安定供給体制維持方策の検討

- ・燃料安定供給体制維持の基本方針
- ・燃料安定供給体制維持方策

5. SS過疎地対策のアクションプラン

- ・行動計画
- ・工程表

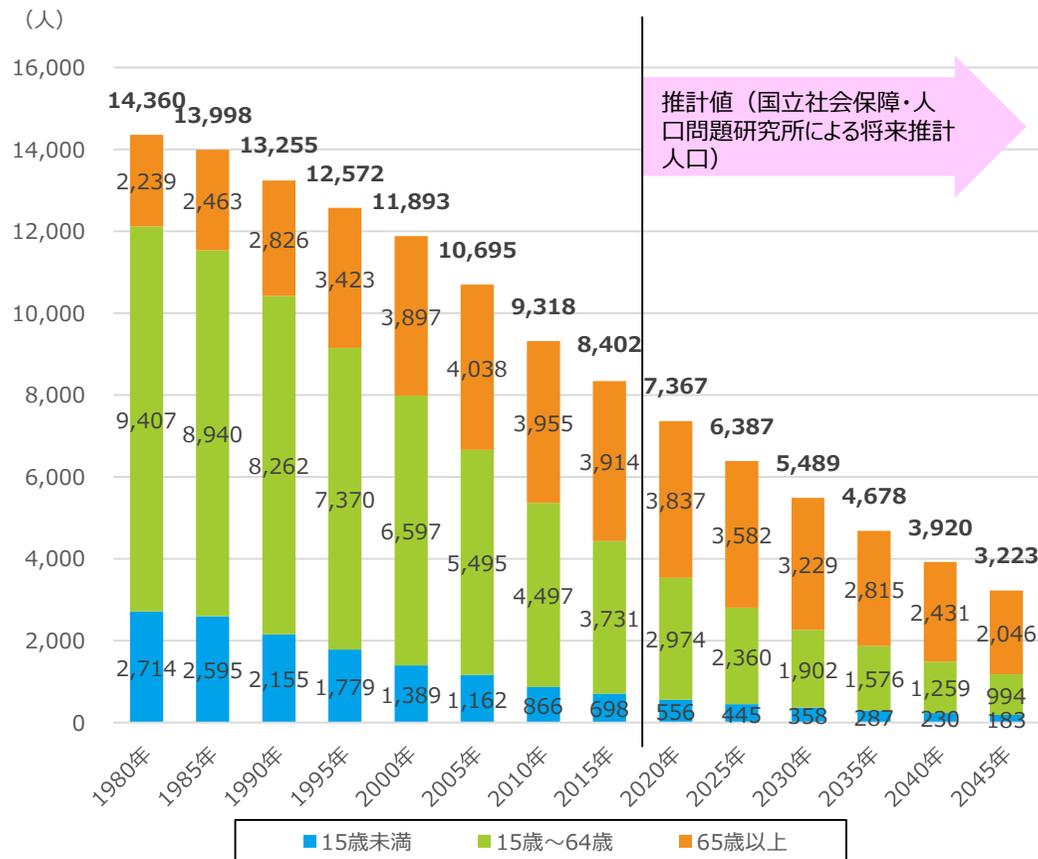
那賀町SS過疎地対策検討協議会

- ・那賀町関係課
- ・地元消防
- ・地元商工会
- ・関連業界団体
- ・徳島県
- ・経済産業省（オブザーバー）

1. 地域の現状 ○人口推移、地区別人口

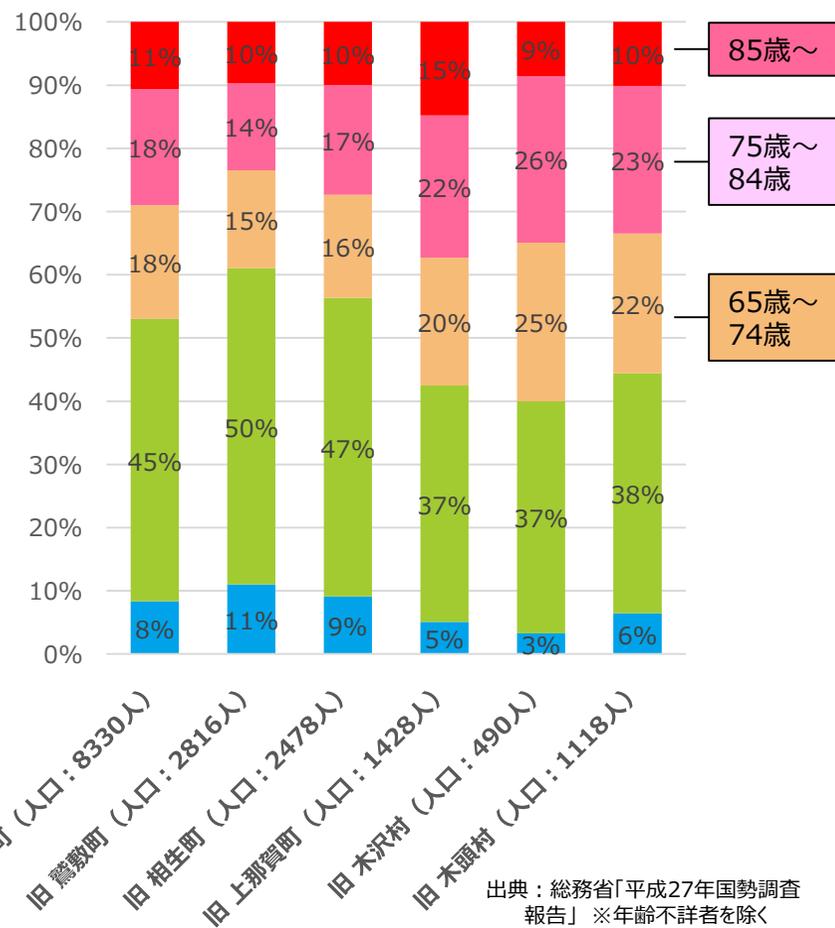
- 人口は減少傾向が続いており、今後も減少が進む見通しとなっている。
- 町全体の高齢化率は47%だが、上那賀、木沢、木頭では50%を超えており、後期高齢者割合も3割を超えている。

①人口の推移と見通し



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 ※2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

②地区別人口（2015年）



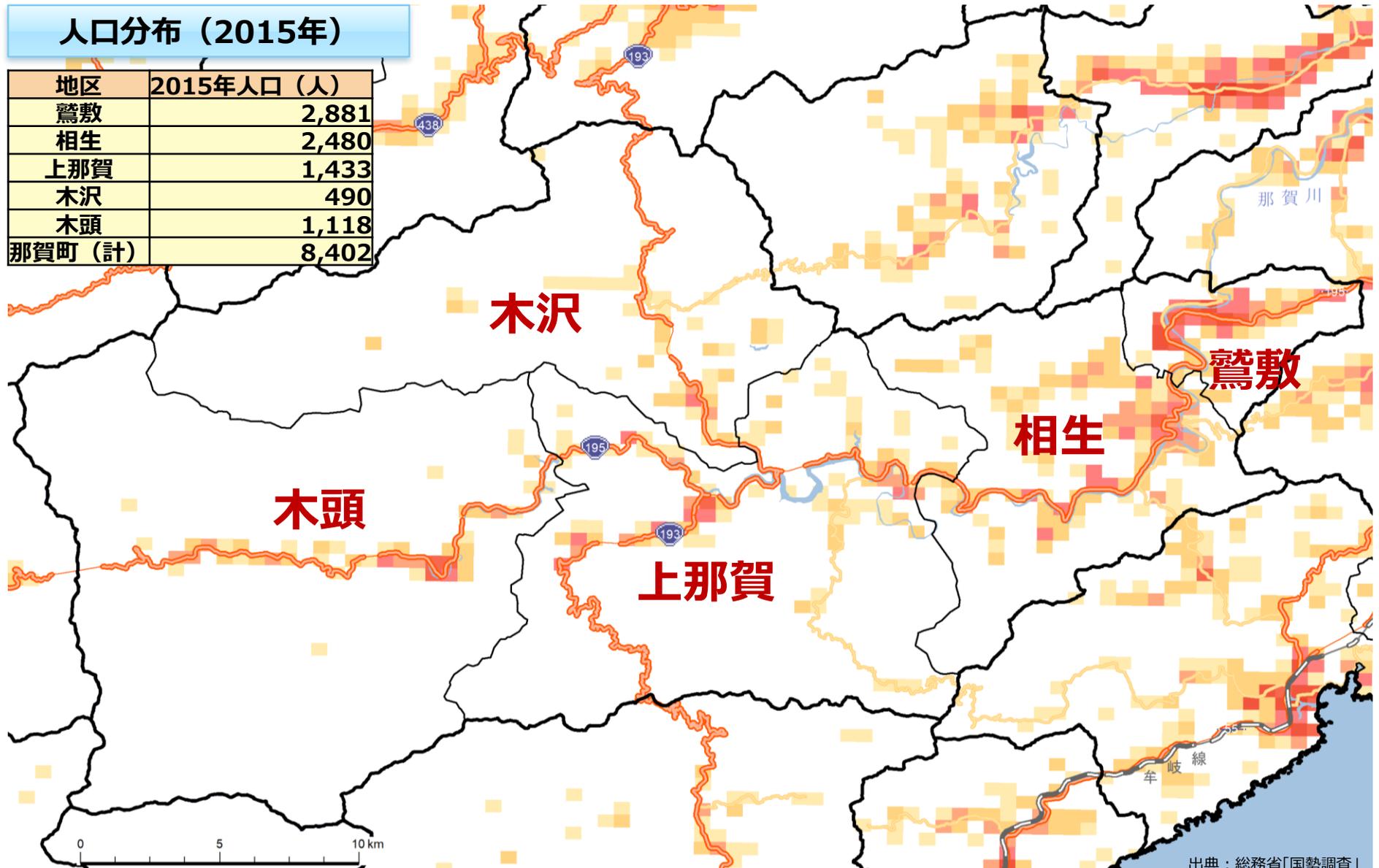
出典：総務省「平成27年国勢調査報告」 ※年齢不詳者を除く

1. 地域の現状 ○人口分布

③人口分布

人口分布（2015年）

地区	2015年人口（人）
鷺敷	2,881
相生	2,480
上那賀	1,433
木沢	490
木頭	1,118
那賀町（計）	8,402



出典：総務省「国勢調査」

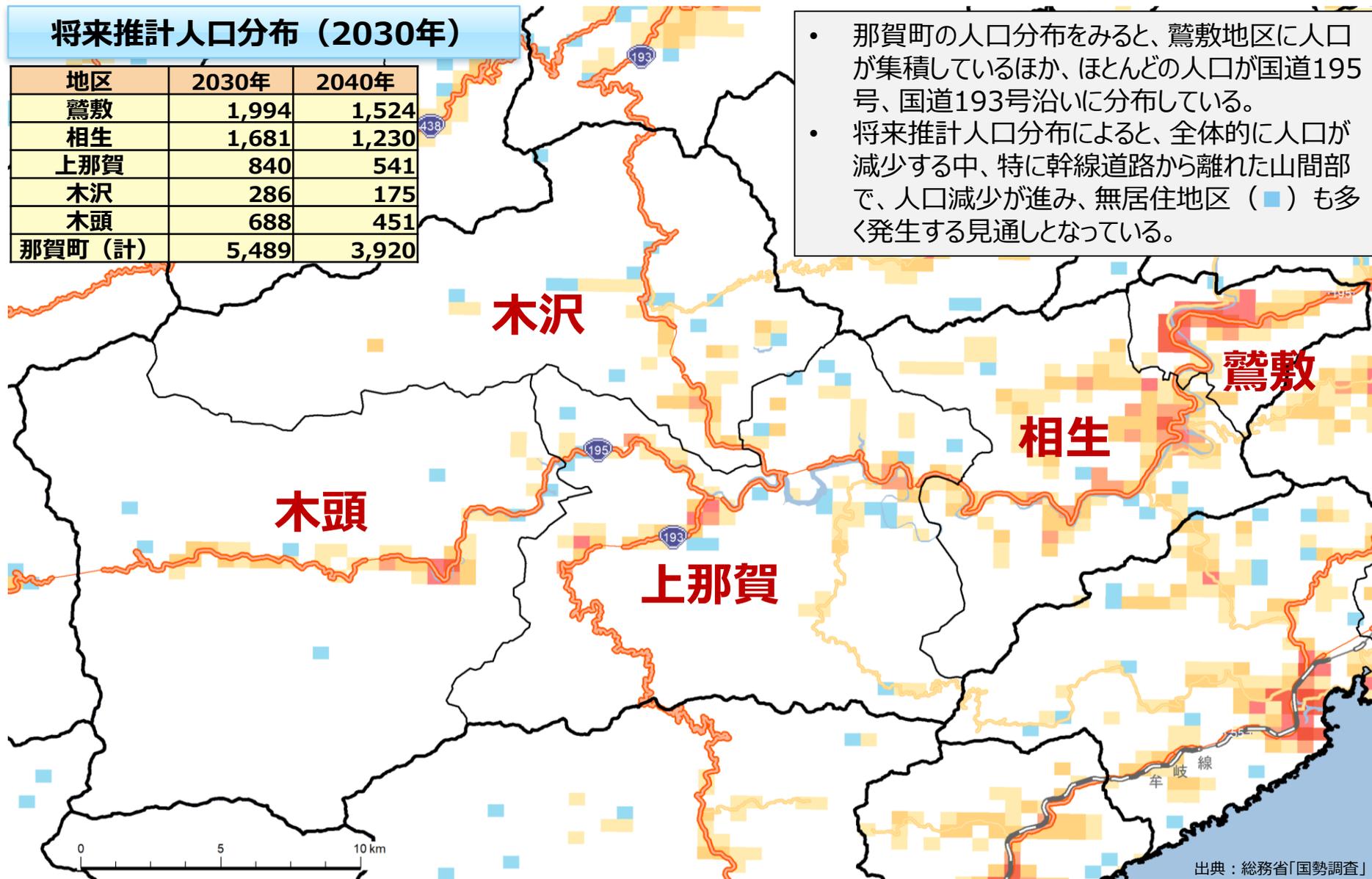
1. 地域の現状 ○将来の人口分布

③人口分布

将来推計人口分布（2030年）

地区	2030年	2040年
鷺敷	1,994	1,524
相生	1,681	1,230
上那賀	840	541
木沢	286	175
木頭	688	451
那賀町（計）	5,489	3,920

- 那賀町の人口分布をみると、鷺敷地区に人口が集積しているほか、ほとんどの人口が国道195号、国道193号沿いに分布している。
- 将来推計人口分布によると、全体的に人口が減少する中、特に幹線道路から離れた山間部で、人口減少が進み、無居住地区（■）も多く発生する見通しとなっている。



出典：総務省「国勢調査」

1. 地域の現状 ○世帯数、高齢者世帯の状況

- ・ 那賀町の一般世帯数は3472世帯（2015年）で、前回国勢調査時よりも減少している。
- ・ このうち、高齢者単身世帯数は690世帯で、総世帯数の2割を占める。75歳以上の単身世帯も14%程度存在している。
- ・ 地区別にみると、旧上那賀村では高齢者単身世帯が3割近くを占めている。

一般世帯数の推移

	世帯数		一般世帯総数に占める割合	
	2010年	2015年	2010年	2015年
一般世帯数	3,697	3,472	100.0%	100.0%
高齢者夫婦世帯数	665	658	18.0%	19.0%
高齢者単身世帯数	651	690	17.6%	19.9%

高齢者単身世帯数

	世帯数	割合
一般世帯数	3,472	100.0%
単身世帯数：65歳以上	690	19.9%
単身世帯数：75歳以上	480	13.8%
単身世帯数：85歳以上	184	5.3%

地区別の世帯数

地区	世帯数	高齢者単身世帯数	高齢者単身世帯割合
鷺敷	1,078	154	14.3%
相生	914	159	17.4%
上那賀	667	182	27.3%
木沢	236	55	23.3%
木頭	577	140	24.3%
那賀町（計）	3,472	690	19.9%

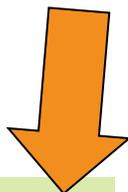
1. 地域の現状 ○流動人口（通勤・通学）

- 町民のほとんどは、昼間は町内に滞在（町内で従業・通学）している。
- 町外から那賀町への流入人口（通勤通学で流入する人口）は895人、流出人口は773人で、流入超過となっている。
- 流出入先としては、阿南市が流入・流出ともに半数を超え最も多い。

区分	人数
従業・通学していない	3925
町内で従業・通学	3614
町外で従業・通学	781
町外から（那賀町内に）従業・通学	895

※従業・通学不詳者を除く

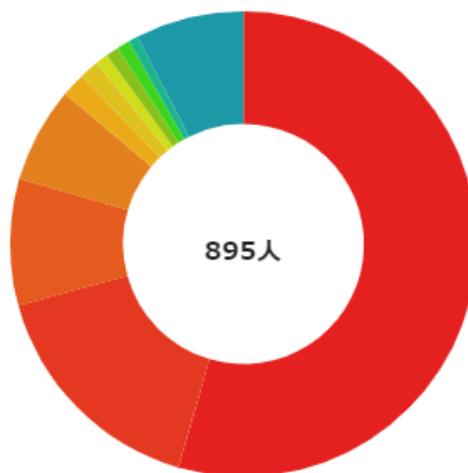
町外で従業・通学には町外従業・通学先地域不詳を含む



町外からの流入者のうち、
鷺敷地区を経由するとみられる通勤者
(町外者からの流入自動車台数想定数)

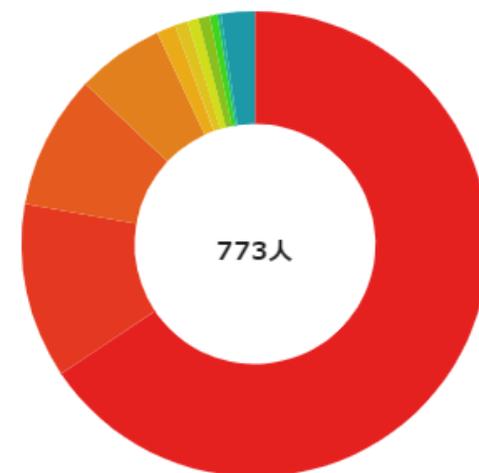
居住地	流入者数 (人) (通勤者)
阿南市	440
徳島市	129
小松島市	74
計	643

町外からの流入者数



- 1位 徳島県阿南市 488人 (54.53%)
- 2位 徳島県徳島市 145人 (16.20%)
- 3位 徳島県小松島市 79人 (8.83%)
- 4位 徳島県美波町 59人 (6.59%)
- 5位 徳島県海陽町 15人 (1.68%)
- 6位 徳島県鳴門市 12人 (1.34%)
- 7位 徳島県勝浦町 8人 (0.89%)
- 8位 徳島県牟岐町 8人 (0.89%)
- 9位 徳島県葦住町 8人 (0.89%)
- 10位 徳島県吉野川市 6人 (0.67%)

町外（県内）への流出者数

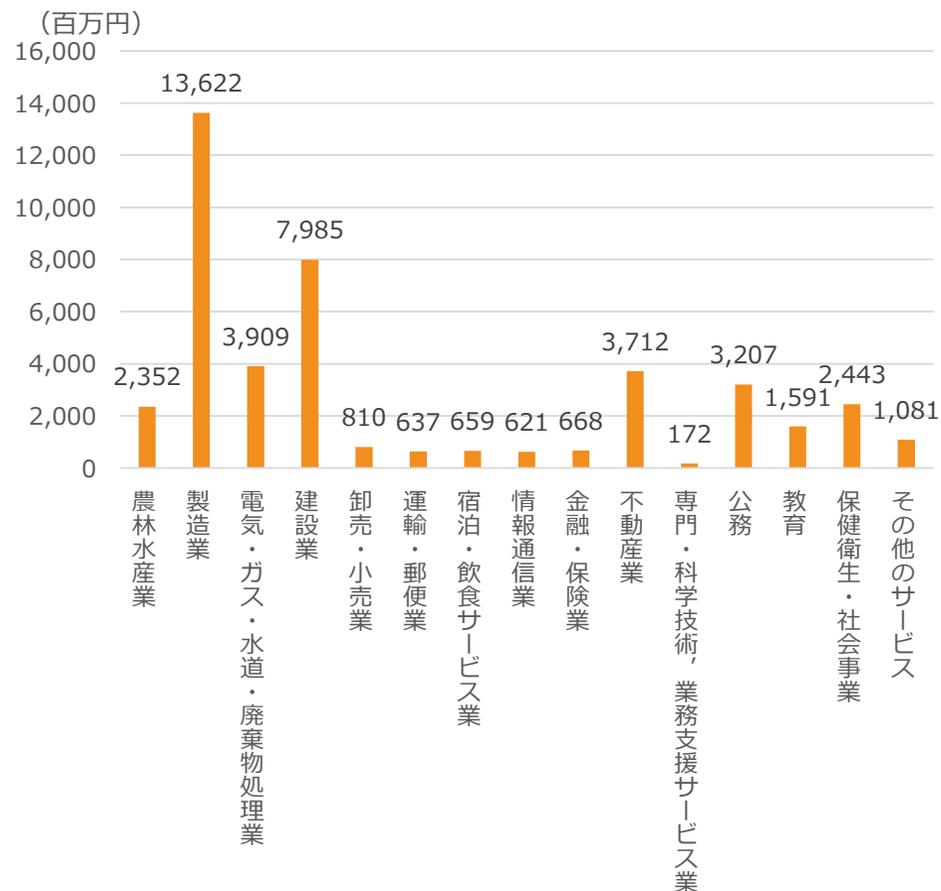


- 1位 徳島県阿南市 507人 (65.59%)
- 2位 徳島県徳島市 94人 (12.16%)
- 3位 徳島県美波町 72人 (9.31%)
- 4位 徳島県小松島市 47人 (6.08%)
- 5位 徳島県鳴門市 10人 (1.29%)
- 6位 徳島県牟岐町 7人 (0.91%)
- 7位 徳島県勝浦町 6人 (0.78%)
- 8位 徳島県松茂町 6人 (0.78%)
- 9位 徳島県阿波市 4人 (0.52%)
- 10位 徳島県上勝町 2人 (0.26%)

1. 地域の現状 ○産業構造

- ・ 那賀町の域内総生産は約436億円（2016年）で、そのうち約3割を製造業が占めている。
- ・ 従業者数は、農業・林業が全体の約2割を占め最も多く、次いで製造業、建設業が多い

①産業分類別付加価値額（2016年）



出典：平成28年徳島県市町村民経済計算

②産業分類別従業者数（2015年）

産業分類	従業者数 (人)	従業者数 (割合)
A 農業, 林業	734	18.9%
B 漁業	7	0.2%
C 鉱業, 採石業, 砂利採取業	1	0.0%
D 建設業	577	14.8%
E 製造業	609	15.7%
F 電気・ガス・熱供給・水道業	31	0.8%
G 情報通信業	11	0.3%
H 運輸業, 郵便業	93	2.4%
I 卸売業, 小売業	318	8.2%
J 金融業, 保険業	31	0.8%
K 不動産業, 物品賃貸業	6	0.2%
L 学術研究, 専門・技術サービス業	40	1.0%
M 宿泊業, 飲食サービス業	147	3.8%
N 生活関連サービス業, 娯楽業	75	1.9%
O 教育, 学習支援業	205	5.3%
P 医療, 福祉	451	11.6%
Q 複合サービス事業	121	3.1%
R サービス業 (他に分類されないもの)	132	3.4%
S 公務 (他に分類されるものを除く)	287	7.4%
T 分類不能の産業	11	0.3%
町内従業者数計	3,887	100.0%

出典：総務省「平成27年国勢調査報告」

1. 地域の現状 ○ 民営事業所と従業者数

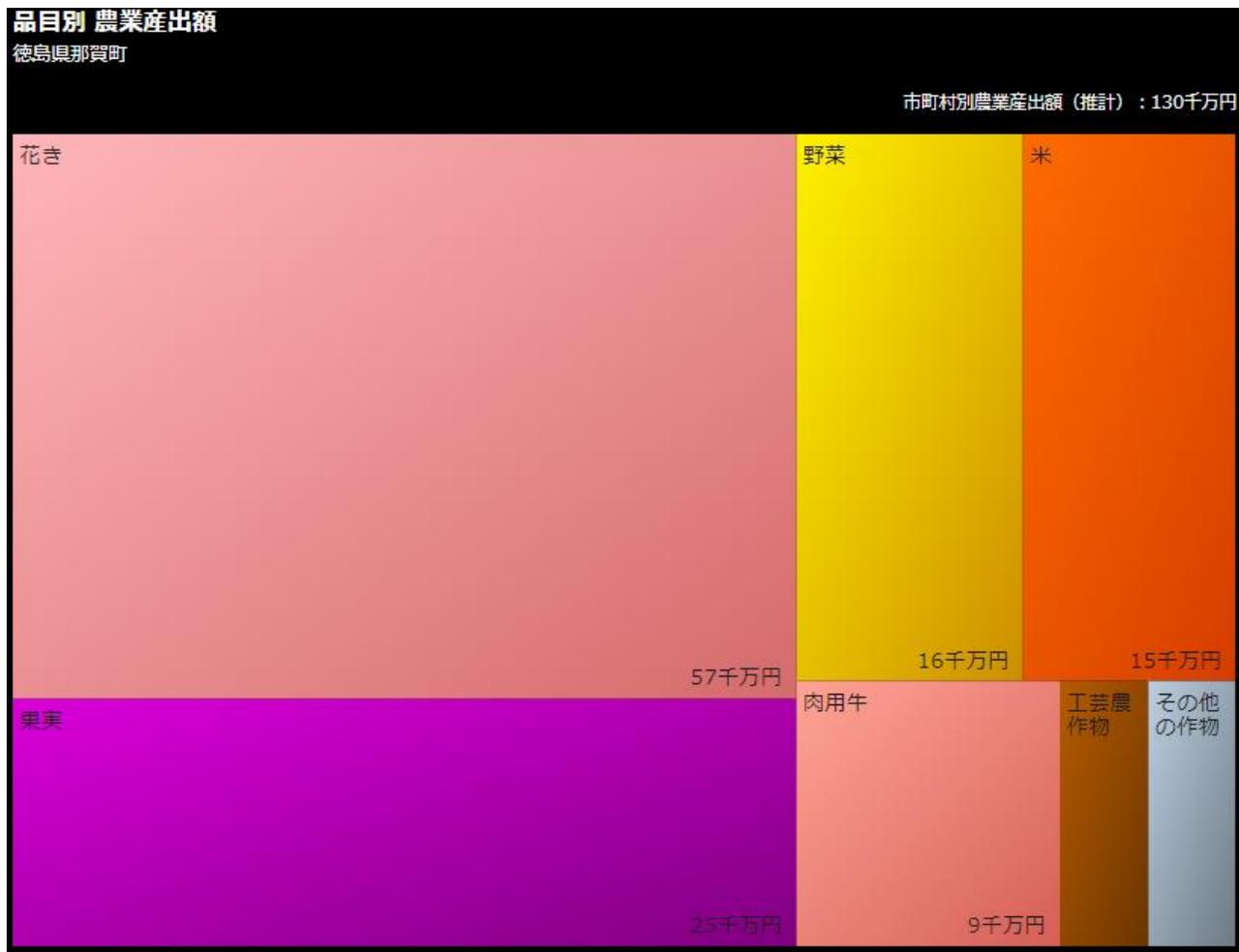
- 那賀町の民営事業所数は468事業所、同従業者数は2830人となっている（いずれも2016年）。
- 事業所数は、飲食料品小売業、その他の小売業、飲食店、総合工事業、洗濯理美容業が多く、これら上位5産業で事業所数全体の42%を占める。
- 従業者数は、総合工事業、保険福祉介護事業、食料品製造業が多く、これら上位4業種で従業者数全体の36%を占める。

民営事業所産業中分類別の事業所数、事業所従業者数（2016年の従業者数上位20業種）

産業大分類	産業中分類	事業所数				従業者数			
		2009年	2012年	2014年	2016年	2009年	2012年	2014年	2016年
建設業	6 総合工事業	44	44	40	37	575	526	476	454
医療、福祉	85 社会保険・社会福祉・介護事業	12	12	14	17	230	159	269	314
製造業	9 食料品製造業	10	14	13	13	74	201	71	249
卸売業、小売業	60 その他の小売業	63	51	49	42	213	191	183	190
製造業	18 プラスチック製品製造業（別掲を除く）	1	1	1	1	283	292	209	162
卸売業、小売業	58 飲食料品小売業	72	63	56	43	219	187	148	133
宿泊業、飲食サービス業	76 飲食店	43	41	43	39	144	171	128	124
農業、林業	2 林業	6	5	6	5	109	30	112	85
製造業	12 木材・木製品製造業（家具を除く）	19	19	19	16	93	92	74	72
宿泊業、飲食サービス業	75 宿泊業	17	14	10	12	100	78	69	71
農業、林業	1 農業	3	4	5	6	11	23	15	58
生活関連サービス業、娯楽業	78 洗濯・理容・美容・浴場業	46	42	41	37	74	66	58	58
製造業	21 窯業・土石製品製造業	8	8	8	6	41	55	57	50
建設業	7 職別工事業（設備工事業を除く）	25	15	12	10	54	43	41	47
複合サービス事業	86 郵便局	11	12	12	12	58	54	41	47
製造業	32 その他の製造業	2	3	2	3	4	4	3	46
運輸業、郵便業	43 道路旅客運送業	10	10	10	10	46	44	38	40
卸売業、小売業	59 機械器具小売業	17	17	19	19	40	37	39	40
医療、福祉	83 医療業	10	7	7	7	95	87	40	40
サービス業（他に分類されないもの）	89 自動車整備業	13	13	12	12	40	40	39	37

1. 地域の現状 ○農業

- 那賀町の農業における主な産品は花きであり、農業産出額全体の4割以上を占めている。

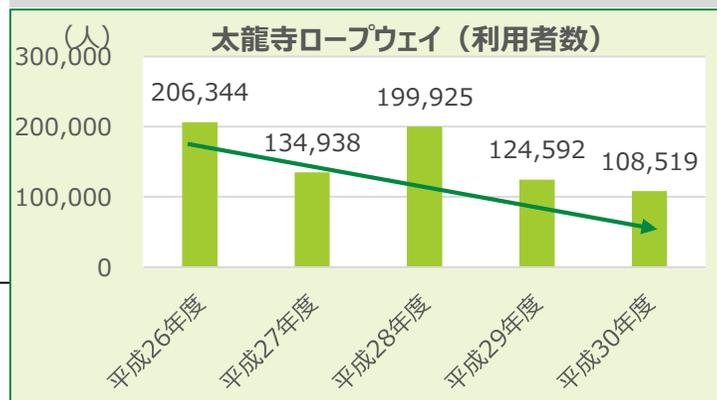


出典：RESAS（農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」）

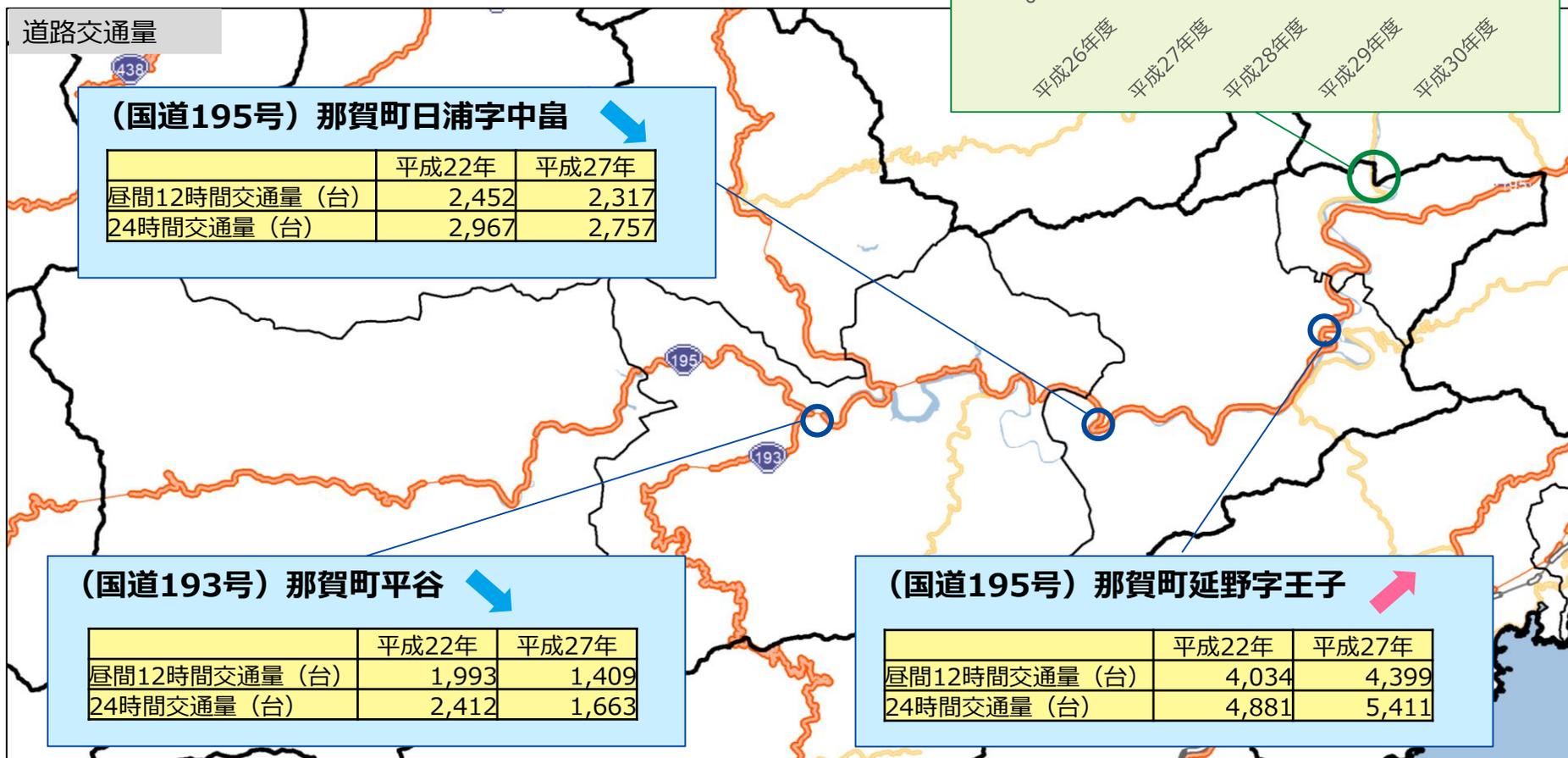
1. 地域の現状 ○道路交通・観光

- 主要道路の交通量について、平成22年と平成27年を比較すると、延野地区は増加しているが、そのほかの箇所は減少しており、特に平谷地区では3割以上減少している。
- 観光について、太龍寺ロープウェイの利用者数を見ると、平成28年度に一時的に増加に転じたものの、近年は減少傾向となっている。

観光客数（太龍寺ロープウェイ）



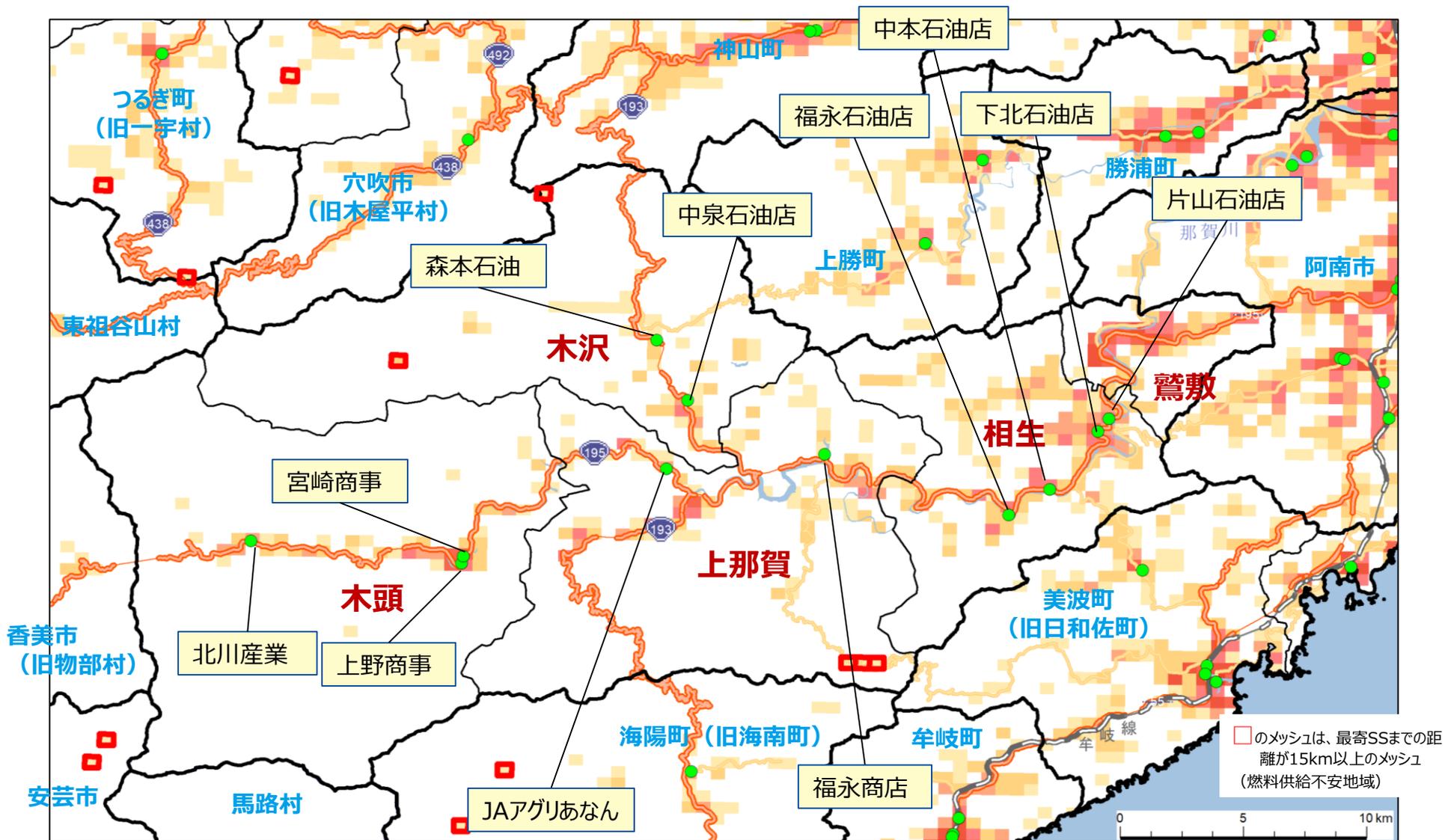
道路交通量



出典：道路交通センサス

2. 地域の燃料供給体制の現状 ○町内のSS

- 町内には、現在、11箇所のSSがあるが、最も人口が集積している鷺敷地区にはSSが立地していない。
- 上那賀地区、木沢地区には、最寄SSまでの距離が15km以上の燃料供給不安地域が存在している。



2. 地域の燃料供給体制の現状 ○町内SSの運営状況

- 町内のSS事業者の営業状況は下記のとおりであり、ほとんどのSSが、地元住民を主な顧客として営業を行っており、配達を行っているSSも多い。

店舗名	地区	系列	営業日		油類以外の営業品 目	従業員数 (パート含む)	地下タンク 容量 (KL)	油種別容量 (KL)				配達		
			曜日	時間				ハイオク	レギュラー	軽油	灯油	軽油	灯油	主なエリア
片山石油店	相生	シェル	月～土	7:00～19:30	・オイル交換 ・タイヤ交換 ・カー用品 ・ドリンク	4	30	4	10	6	10	○	○	鷺敷 相生
下北石油店	相生	コスモ	月～土	7:30～19:30	・L Pガス ・写真撮影	4	30	4	10	6	10		○	相生
中本石油店	相生	エネオス	月～日	6:45～19:00	・オイル交換 ・タイヤ交換 ・カー用品 ・ドリンク	4	30	4	10	10	6	○	○	相生
福永石油店	相生	エネオス	月～土	6:30～19:00	・飲食店 ・オイル交換 ・タイヤ交換 ・カー用品 ・ドリンク	3	40	4	10	16	10	○	○	相生
福永商店	上那賀	シェル	月～土	7:00～19:00	・L Pガス ・酒類 ・釣り具	4	30	4	6	10	10	○	○	木頭 相生 鷺敷
J A アグリあなん	上那賀	J A	月～土	平日: 7:30～18:00 土: 8:30～17:30	・オイル交換 ・タイヤ交換 ・カー用品 ・ドリンク	3	30	3	10	7	10	○	○	木頭 木沢 上那賀
中泉石油店	木沢	エネオス	月～土	7:00～19:00	・オイル交換 ・タイヤ交換 ・カー用品	2	30	3	7	10	10	○	○	木沢 上那賀
森本石油	木沢	シェル	月～土	7:00～18:00	・カー用品	2	30	3	7	10	10	○	○	木沢
宮崎商事	木頭	エネオス	無休	8:30～17:30	・オイル交換 ・タイヤ交換 ・カー用品 ・米 ・プロパンガス	2	40	3	10	10	17	○	○	木頭
上野商事	木頭	エネオス	月～土	7:00～19:30	なし	2	30	3	7	10	10	○	○	木頭
北川産業	木頭	エネオス	月水金	12:00～19:00	なし	2	30	3	7	10	10		○	木頭

出典：各事業者への聞き取りによる（2019年12月12日、25日）

2. 地域の燃料供給体制の現状 ○町内SSの営業状況と見通し

- 町内のSS事業者の販売量合計は年間約5200KLで、1店舗あたりの販売量は、200KL程度～1000KL程度となっている。
- 軽油、灯油は、店頭販売よりも配達販売のほうが多く、特に軽油は、土木建設や林業の現場への販売も多い。
- 多くのSSが、「近年、販売量が大きく減少してきている」としており、「数年先まで営業できるかわからない」、「5～10年先は厳しい」といった見通しを持っているSSもみられた。

町内SSの油種別、販売方法別販売量（11事業所の合計値）

合計	ガソリン	軽油		灯油	
		店頭	配達	店頭	配達
5,194	2,270	985	1,195	259	485

単位：KL

※上記数値は、聞き取りにより把握した概数値であり、各事業者の計数資料をもとに集計したものではない。

今後の見通しについての主な意見等

- 顧客は大きく減少してきている
- 見通しは厳しい
- 5年後、10年後は経営しているかわからない
- 後継者はおらず、設備更新のタイミングで廃業する予定
- 公共工事に期待している

3. 地域の燃料需要及びニーズ ○町民アンケート調査の概要

アンケート調査の概要

- 計画策定にあたり、町民の燃料購入の状況及びニーズ等を把握するため、町内全世帯を対象としたアンケート調査を実施した。

<対象>：町内全世帯（3730世帯）

<実施時期>：令和2年1月6日～1月15日

<方法>：広報紙とともに各戸配布・郵送回収

<回収数>：1,300（回収率35%）

※有効回答数は、設問により異なる

<調査項目>

- 保有機器（灯油使用機器、ホームタンク等）
- 油種ごとの燃料購入先、購入量
- 鷲敷地区にSSが新設された場合の利用ニーズ
- 災害時等の燃料調達に関する不安

<地区別回答数>

※地区名無回答者、回答不明者を除く

地区	区	回答数	割合
鷲敷	東部	66	5.2%
	中央	174	13.6%
	西部	157	12.3%
	不明	35	2.7%
	計	432	33.8%
相生	日野谷	79	6.2%
	相生	88	6.9%
	延野	133	10.4%
	不明	60	4.7%
	計	360	28.1%
上那賀	宮浜	71	5.6%
	平谷	74	5.8%
	海川	31	2.4%
	不明	36	2.8%
	計	212	16.6%

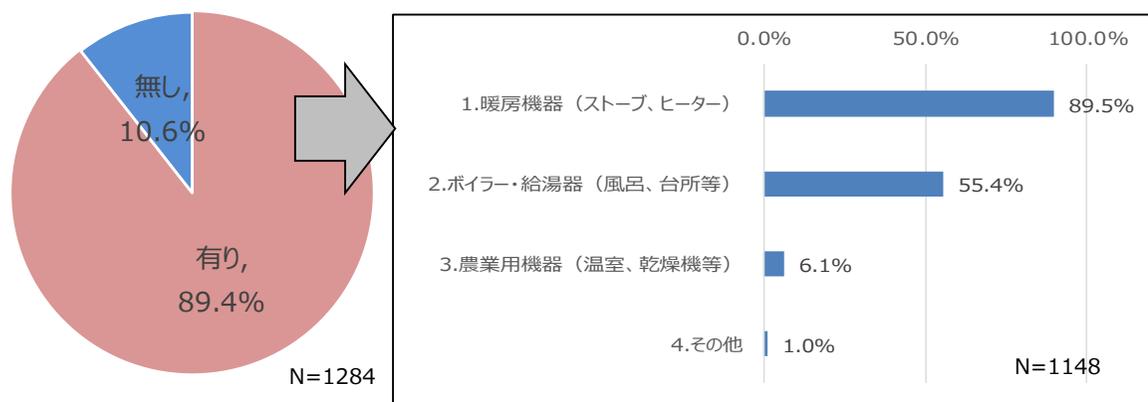
地区	区	回答数	割合
木沢	坂洲	37	2.9%
	大美谷	15	1.2%
	沢谷	12	0.9%
	不明	19	1.5%
	計	83	6.5%
木頭	北川	25	2.0%
	折宇	21	1.6%
	和無田	33	2.6%
	西宇	12	0.9%
	南宇	19	1.5%
	出原	56	4.4%
	助	14	1.1%
	不明	12	0.9%
計	192	15.0%	
合計		1,279	100.0%

3. 地域の燃料需要及びニーズ ○ 町民の灯油使用状況

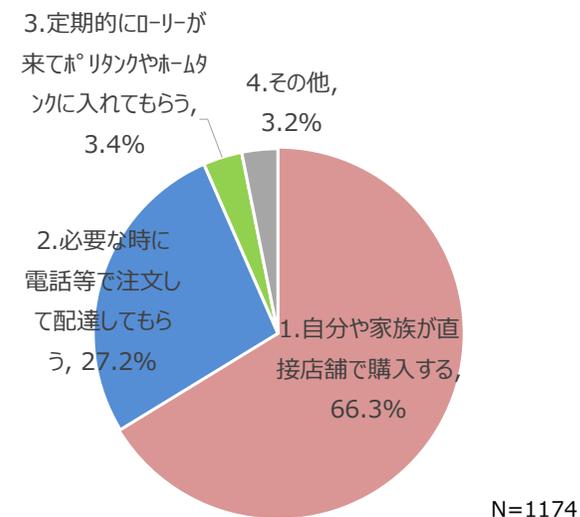
灯油の使用状況、購入方法

- 灯油使用機器は、約9割の世帯が保有しており、保有機器としては、「暖房機器（ストーブ、ヒーター）」が約9割、「ボイラー・給湯器（風呂、台所等）」が約6割となっている。また、ホームタンクは約7割の世帯が保有している。
- 灯油の購入方法は、店頭購入が約7割で、配達が約3割となっている。

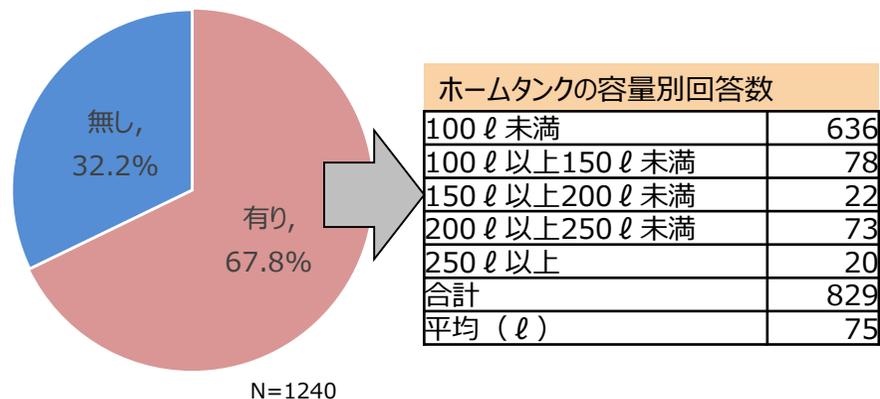
灯油使用機器の有無と保有している灯油機器



灯油の購入方法



ホームタンクの有無



3. 地域の燃料需要及びニーズ ○町民の自動車用燃料の給油状況

自動車用燃料の給油場所

- 自動車用燃料の給油場所は、各地区とも、居住している地区内のSSで給油する割合が比較的高い。
- 他方、町外のSSで給油する割合も一定程度見られており、鷺敷地区居住者の場合約6割、相生、上那賀、木沢の各地区居住者は約2割が阿南市内で給油している。

自動車用燃料の給油場所（居住地区別）

ひと月あたり平均給油量 57.9L/月/台

購入先 居住地区	回答者数 (台数)	相生地区内 のSS	上那賀地区 内のSS	木沢地区内 のSS	木頭地区内 のSS	阿南市内	その他	地区内購入 率	町内購入率	町内SS購 入率
鷺敷	725	26.6%	0.3%	0.0%	0.0%	63.0%	10.1%	0.0%	26.9%	26.9%
相生	697	70.4%	0.7%	0.1%	0.1%	20.5%	8.0%	70.4%	71.4%	71.4%
上那賀	297	18.9%	55.9%	0.7%	2.7%	15.8%	6.1%	55.9%	78.1%	78.1%
木沢	132	10.6%	15.2%	50.8%	2.3%	15.9%	5.3%	50.8%	78.8%	78.8%
木頭	311	2.9%	12.5%	0.3%	69.5%	8.0%	6.8%	69.5%	85.2%	85.2%
計	2,162	35.3%	10.7%	3.3%	10.5%	32.1%	8.1%	43.5%	59.9%	59.9%

※1世帯最大3台まで回答

3. 地域の燃料需要及びニーズ ○町民の家庭用灯油の購入状況

灯油の購入場所

- 灯油の購入場所は、居住している地区内のSSからの購入割合が高く、各地区とも、地区内SSからの購入率が5割を超えている。
- なお、鷺敷地区は、コメリ鷺敷店が約6割みられるほか、阿南市内や相生地区のSSからの購入世帯がそれぞれ2割弱見られている。木沢地区では地区内のSSが約6割みられるほか、上那賀地区のSSからの購入世帯が3割弱となっている。
- 相生地区、上那賀地区では7割以上、木頭地区では9割近くが、地区内のSSからの購入となっている。
- ひと月当たりの平均購入量は、ピーク月で約80Lとなっている。

灯油の購入場所（居住地区別）

ひと月あたり平均購入量（ピーク月）72.5/月/世帯

購入先 居住地区	回答者数	相生地区内 のSS	上那賀地区 内のSS	木沢地区内 のSS	木頭地区内 のSS	コメリ鷺敷店	阿南市内	その他	地区内購入 率	町内購入率	町内SS購 入率
鷺敷	327	15.0%	0.0%	0.0%	0.0%	56.3%	19.9%	8.9%	56.3%	71.3%	15.0%
相生	311	73.6%	0.6%	0.0%	0.3%	10.3%	9.3%	5.8%	73.6%	84.9%	74.6%
上那賀	192	6.3%	75.5%	1.0%	6.3%	3.1%	4.7%	3.1%	75.5%	92.2%	89.1%
木沢	80	1.3%	26.3%	58.8%	3.8%	3.8%	3.8%	2.5%	58.8%	93.8%	90.0%
木頭	174	0.6%	9.2%	0.0%	86.2%	0.6%	2.3%	1.1%	86.2%	96.6%	96.0%
計	1,084	26.9%	17.0%	4.5%	15.3%	20.8%	10.1%	5.3%	69.6%	84.6%	63.7%

3. 地域の燃料需要及びニーズ ○町民のその他燃料の購入状況

その他のガソリン、灯油等の購入場所

- 家庭用以外の灯油、自動車用以外の（農業用などの）ガソリン・混合油や灯油も、鷺敷地区を除いて、居住する地区内のSSからの購入割合が高く、木沢地区で6割程度、相生、上那賀、木頭の各地区は8割を超えている。
- 鷺敷地区居住者の場合、阿南市内のSSで購入している割合が4割超となっている。

その他のガソリン・混合油の購入場所（居住地区別）

ひと月あたり平均購入量17.9L/月/世帯

購入先 居住地区	回答者数	相生地区内 のSS	上那賀地区 内のSS	木沢地区内 のSS	木頭地区内 のSS	阿南市内	その他	地区内購入 率	町内購入率	町内SS購 入率
鷺敷	114	52.6%	0.0%	0.0%	0.0%	43.9%	3.5%	0.0%	52.6%	52.6%
相生	252	93.7%	1.6%	0.0%	0.0%	3.2%	1.6%	93.7%	95.2%	95.2%
上那賀	118	10.2%	82.2%	0.8%	5.9%	0.8%	0.0%	82.2%	99.2%	99.2%
木沢	56	5.4%	17.9%	66.1%	5.4%	1.8%	3.6%	66.1%	94.6%	94.6%
木頭	111	0.0%	9.0%	0.0%	87.4%	0.9%	2.7%	87.4%	96.4%	96.4%
計	651	47.8%	18.6%	5.8%	16.4%	9.4%	2.0%	71.7%	88.6%	88.6%

その他の灯油の購入場所（居住地区別）

ひと月あたり平均購入量85.4L/月/世帯

購入先 居住地区	回答者数	相生地区内 のSS	上那賀地区 内のSS	木沢地区内 のSS	木頭地区内 のSS	コメリ鷺敷店	阿南市内	その他	地区内購入 率	町内購入率	町内SS購 入率
鷺敷	25	28.0%	0.0%	0.0%	0.0%	48.0%	20.0%	4.0%	48.0%	76.0%	28.0%
相生	32	84.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	12.5%	84.4%	84.4%	84.4%
上那賀	7	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
木沢	5	20.0%	0.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	100.0%	100.0%
木頭	4	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
計	73	47.9%	9.6%	4.1%	6.8%	16.4%	8.2%	6.8%	72.6%	84.9%	68.5%

3. 地域の燃料需要及びニーズ ○町民のその他燃料の購入状況

その他のガソリン、灯油等の購入場所

- 自動車用以外の（農業用などの）軽油も、各地区内のSSからの購入割合が高い。
- A重油については、町内での需要家は限られている。

その他の軽油の購入場所（居住地区別）

ひと月あたり平均購入量61.4L/月/世帯

購入先 居住地区	回答者数	相生地区内 のSS	上那賀地区 内のSS	木沢地区内 のSS	木頭地区内 のSS	阿南市内	その他	地区内購入 率	町内購入率	町内SS購 入率
鷺敷	62	59.7%	0.0%	0.0%	0.0%	37.1%	3.2%	0.0%	59.7%	59.7%
相生	130	93.8%	0.8%	0.0%	0.0%	3.8%	1.5%	93.8%	94.6%	94.6%
上那賀	13	15.4%	84.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	84.6%	100.0%	100.0%
木沢	6	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	100.0%	100.0%
木頭	16	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
計	227	70.9%	6.2%	1.8%	7.0%	12.3%	1.8%	67.4%	85.9%	85.9%

A重油の購入場所（居住地区別）

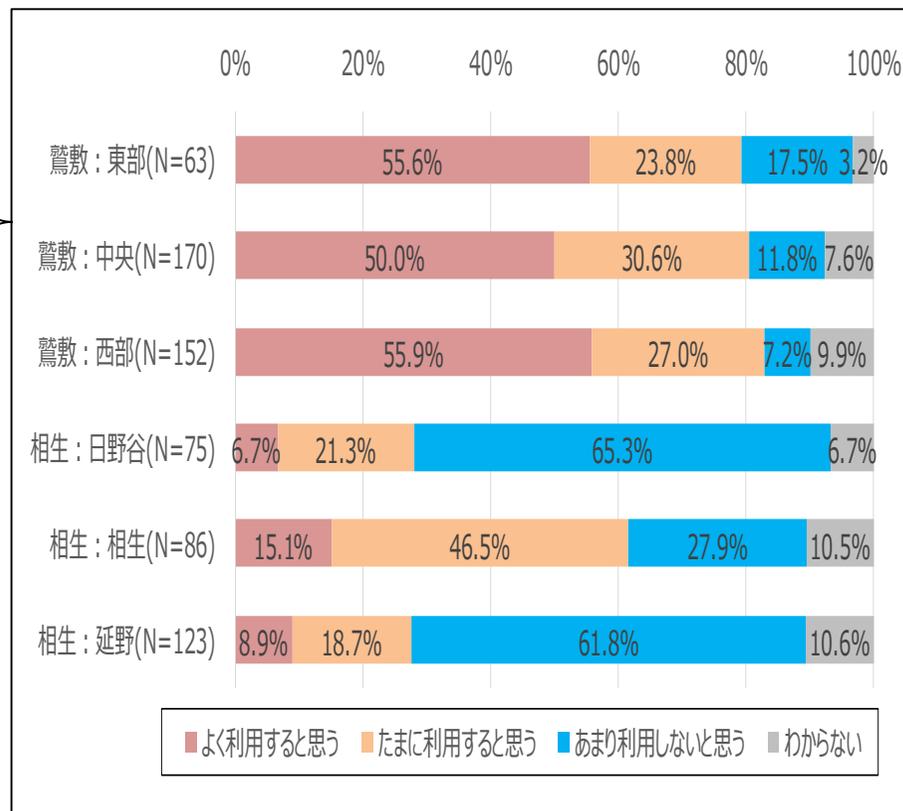
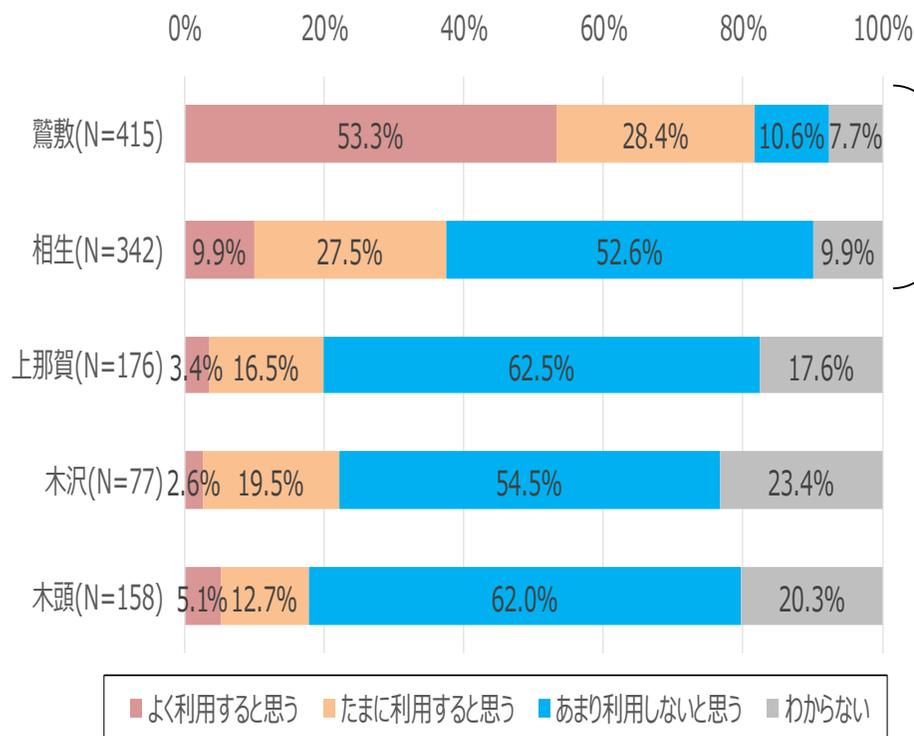
購入先 居住地区	回答者数	相生地区内 のSS	上那賀地区 内のSS	木沢地区内 のSS	木頭地区内 のSS	阿南市内	その他	地区内購入 率	町内購入率	町内SS購 入率
鷺敷	3	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
相生	8	62.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	62.5%	62.5%	62.5%
上那賀	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
木沢	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木頭	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
計	13	38.5%	7.7%	0.0%	7.7%	15.4%	30.8%	53.8%	53.8%	53.8%

3. 地域の燃料需要及びニーズ ○ 鷺敷地区にSSが開設された場合の利用意向

(現在SSがない) 鷺敷地区にSSが開設された場合の利用意向

- 今後、鷺敷地区に新たなSSが開設されたと仮定した場合の利用意向を尋ねたところ、鷺敷地区居住者の半数以上が、「よく利用すると思う」と回答しており、「たまに利用すると思う」を含めると8割を超えている。

鷺敷地区に新たにSSが開設された場合の利用意向 (地区別)

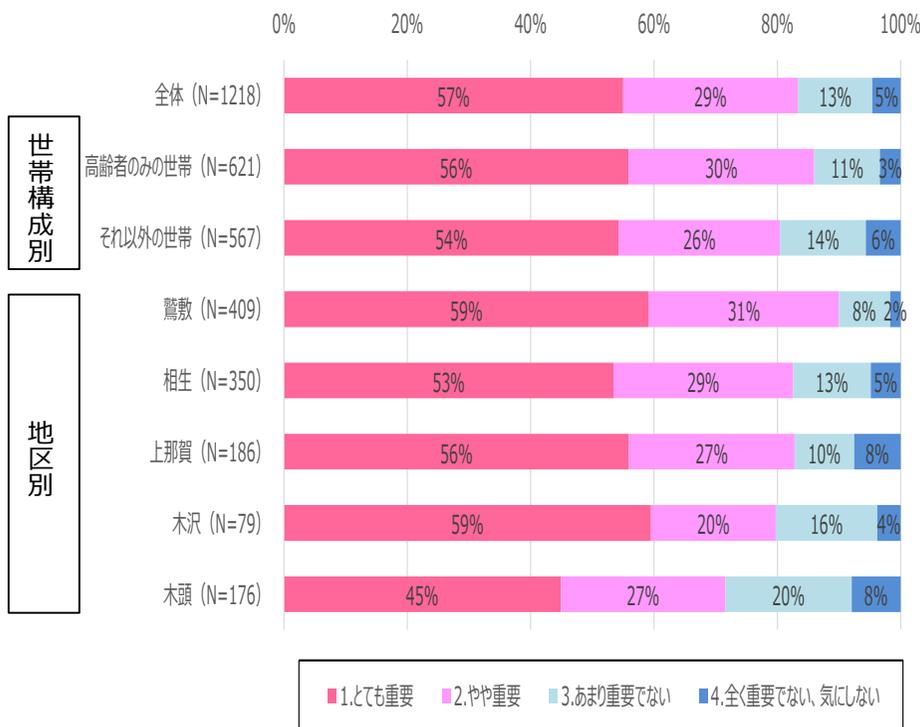


3. 地域の燃料需要及びニーズ ○ガソリンスタンドを選ぶ時の重視事項

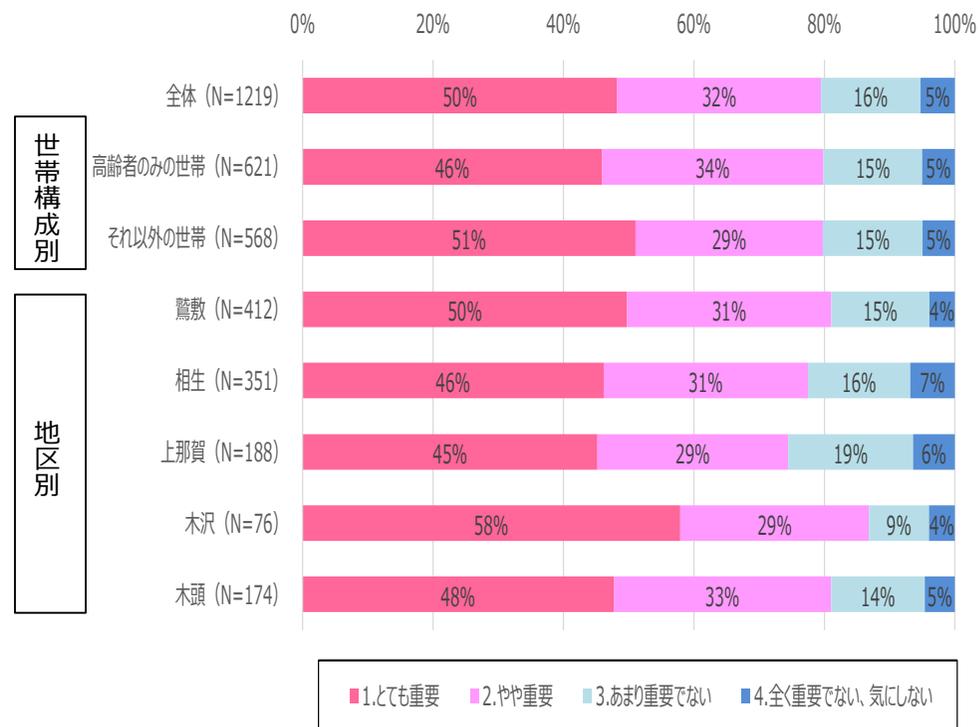
ガソリンスタンドを選ぶときの、価格や自宅からの近さの重視度

- ガソリンスタンドを選ぶ時の、価格や自宅からの近さの重視度を尋ねたところ、価格、自宅からの近さともに、全体の約6割が「とても重要」、約3割が「やや重要」としており、いずれも重視度が高い。
- なお、自宅からの近さについては、木沢地区住民の重視度が他地区と比べてやや高い

①価格



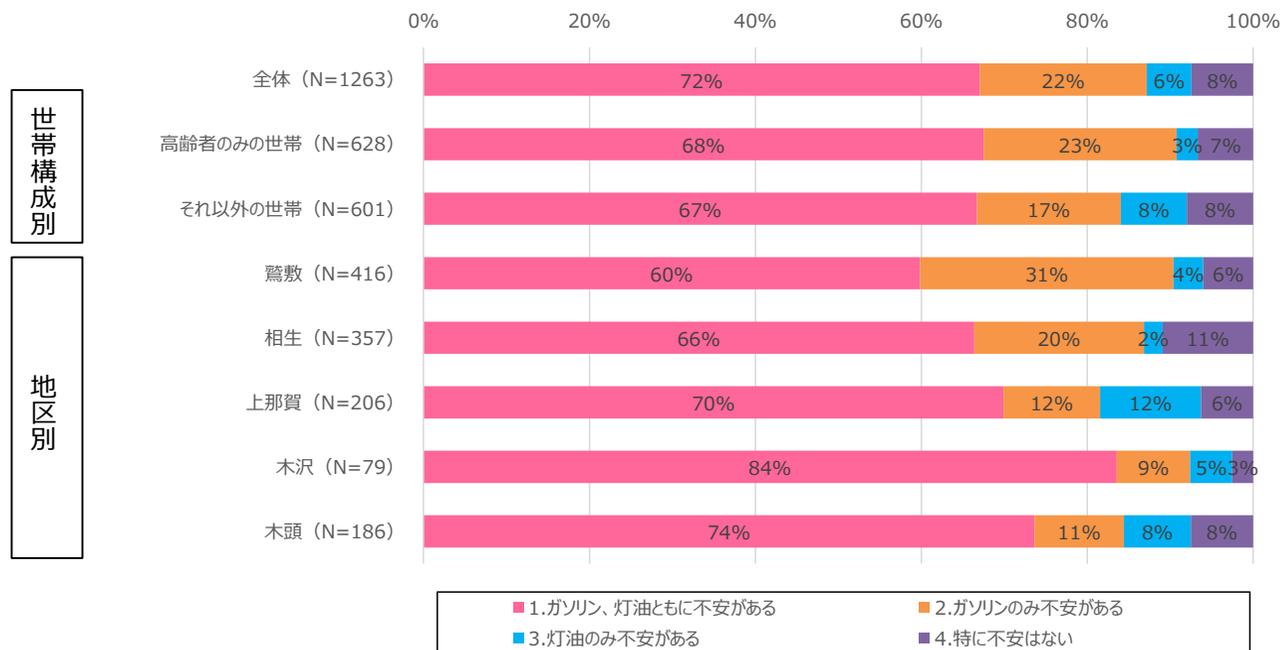
②自宅からの近さ



3. 地域の燃料需要及びニーズ ○ 町民の災害時などの燃料供給不安

災害時の道路通行止めなどによって、自分でガソリンや灯油が手に入れにくくなることに対する不安

- 災害時等に、燃料を手に入れにくくなることに対する不安は、全体の約7割が「ガソリン、灯油ともに不安」としている。「ガソリンのみ不安」「灯油のみ不安」を合わせると、約9割が、災害時の燃料調達に不安を有している。
- 地区別にみると、特に木沢地区で、その割合が高い。



燃料購入やガソリンスタンド利用に関する不安、意見等（自由記入）

- 自由意見は、回答数の3割にあたる431件の記入があった。特に多くみられた意見は以下のとおりである。
 - ✓ 鷺敷地区にガソリンスタンドが欲しい。近くにガソリンスタンドがなくて不便。
 - ✓ 近くのガソリンスタンドがなくなると困る。
 - ✓ 災害時を考えると不安。
 - ✓ 価格が高い。 等

3. 地域の燃料需要及びニーズ ○町内大口需要家の燃料利用状況

町内の主要な大口需要家の燃料利用状況

- 町内の主要な大口需要家の燃料利用状況は以下の通りとなっている。
- いずれも、施設周辺のSS（町内）から購入しており、燃料需要や今後の見通しについて特段の変化等はないとの回答が得られている。

主な大口需要家の燃料利用状況

施設	油種	年間使用量 (L)	主な用途・設備
四季美谷温泉	軽油	600	送迎バス2台
	灯油	86,000	ボイラー
もみじ川温泉	ガソリン	882	送迎バス
	軽油	2,244	送迎バス2台
	灯油	74,429	ボイラー
町立上那賀病院	ガソリン	4,800	公用車、非常用電源
小中学校、公民館	灯油	3,484	暖房等
給食センター	灯油	3,600	調理用、ストーブ用



合計 (L)	
ガソリン	5,682
軽油	2,844
灯油	167,513

3. 地域の燃料需要及びニーズ ○自動車用燃料（ガソリン、軽油）の町内需要量

自動車用燃料（ガソリン、軽油）の燃料需要量推計

- 各種統計資料をもとに、那賀町における自動車用燃料の年間需要量を推計した結果、那賀町のガソリンの年間需要量は、約3600KL、軽油の年間需要量は約1900KLとなった。

A 自動車保有台数 (台)

	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車
平成31年3月末	586	2,710	210	4,763

出典・根拠
国土交通省四国運輸局自動車技術安全部

B 燃料別台数比率

	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車
ガソリン	32%	97%	-	100%
軽油	68%	3%	100%	-

出典・根拠
国土交通省「自動車燃料消費量統計調査」加工集計

C 保有台数推計値 (台)

	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車	合計
ガソリン	189	2,632	-	4,763	7,584
軽油	397	78	210	-	685

出典・根拠
A×B

D 稼働率

	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車
ガソリン	58.1%	69.5%	0.0%	71.1%
軽油	55.1%	60.3%	57.4%	-

出典・根拠
国土交通省「自動車燃料消費量統計調査」加工集計

E 稼働台数推計値 (台)

	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車	合計
ガソリン	110	1,829	-	3,387	5,326
軽油	219	47	121	-	387

出典・根拠
C×D

F 1台あたり年間走行キロ (km/台)

	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車
ガソリン	11,892	9,002	-	8,204
軽油	20,028	10,821	24,523	-

出典・根拠
国土交通省「自動車燃料消費量統計調査」加工集計

G キロあたり燃料消費量 (L/km)

	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車
ガソリン	0.105	0.086	-	0.072
軽油	0.232	0.118	0.265	-

出典・根拠
国土交通省「自動車燃料消費量統計調査」加工集計

H 1台あたり年間燃料消費量 (L)

	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車
ガソリン	1,251	775	-	594
軽油	4,651	1,274	6,509	-

出典・根拠
F×G

I 燃料消費量(総量) (L)

	貨物	乗用	特種(殊)	軽自動車	合計
ガソリン	137,140	1,418,111	-	2,011,266	3,566,517
軽油	1,018,324	59,966	784,811	-	1,863,101

出典・根拠
E×H

3. 地域の燃料需要及びニーズ ○灯油の町内需要量

灯油の燃料需要量推計

- アンケート結果やSS事業者へのヒアリング、その他各種統計資料をもとに、那賀町における灯油の年間需要量を推計した結果、那賀町の灯油の年間需要量は、（宿泊施設等の主要需要家を含めて）約1330KLとなった。

○一般世帯の灯油需要量推計

	町民アンケートからの推計	数値	単位	出典・根拠
①	1世帯当たり最大消費月の消費量	72.5	L	町民アンケート調査より設定（世帯平均）
②	ピーク率	20.8	%	家計調査月報より設定
③	1世帯当たり年間消費量	348.6	L	①/②
④	一般世帯数	3,730	世帯	令和元年度世帯数
⑤	灯油機器保有世帯率	89.4	%	町民アンケート調査より設定
⑥	一般世帯年間消費量（総量）	1,162	KL	③×（④×⑤）

○主要需要家の灯油需要量推計

i	四季美谷温泉（ボイラー）	86	KL	需要家ヒアリングより
ii	もみじ川温泉（ボイラ）	74	KL	需要家ヒアリングより
iii	学校等	7	KL	町提供資料より
iv	主要需要家年間消費量（総量）	167	KL	

灯油需要量推計（合計）		1,329	KL	⑥ + iv（アンケート調査、ヒアリング調査による推計の合計）
-------------	--	-------	----	---------------------------------

3. 地域の燃料需要及びニーズ ○油種別町内燃料需要量

油種別燃料需要量の設定（推計値及びアンケート調査結果等を踏まえた、想定需要量の設定）

ガソリン

【推計値】

- ・ 前述の通り、ガソリンの需要量推計値は約3567KLとなる。

【販売・購入実績からの検証】

- ・ 町内SSのガソリン販売量は2270KLで、これを自動車用燃料の町内SS購入率59.9%で除すると、町内需要量は約3790KLとなる。町内SSの販売量には、町外利用者も一定程度含まれていることを踏まえると、上記の推計値は概ね妥当といえる。

那賀町におけるガソリンの想定需要量は、**3600KL/年**とする。

軽油

【推計値】

- ・ 前述の通り、自動車用燃料としての軽油の需要量推計値は約1863KLであり、このうち特殊（種）用を除くと1078KLとなる。

【販売・購入実績からの検証】

- ・ 町内SSの軽油販売量は店頭販売分が985KL、配達販売分が1195KLである。
- ・ 店頭販売分985KLを、自動車用燃料の町内SS購入率59.9%で除すると、町内需要量は約1,644KLとなる。上記推計値と比較してやや少ないが、稼働率の差が大きい特殊用車両も含まれていることを考慮すると、上記の推計値は概ね妥当といえる。
- ・ 他方、町内SSでは、上記のとおり、主に建設現場等の重機用燃料とみられる配達販売分の軽油が1200KL程度あり、これも町内需要として考慮する必要がある。

那賀町における軽油の想定需要量は、**3000KL/年**とする。
(自動車用：1800KL、その他産業用：1200KL)

灯油

【推計値】

- ・ 前述の通り、灯油の需要量推計値は一般世帯で1162KL、その他需要家を含めて約1329KLとなる。

【販売・購入実績からの検証】

- ・ 町内SSの灯油販売量は744KLで、一般世帯の灯油の町内SS購入率63.9%で除すると、町内需要量は約1,168KLとなる。上記の推計値は概ね妥当といえる。

那賀町における灯油の想定需要量は、**1400KL/年**とする。

3. 地域の燃料需要及びニーズ ○油種別町内燃料需要量の将来見通し

- ここまでの灯油、ガソリン、軽油の想定需要量をもとに、将来の燃料需要量の見通しを推計した。
- これによると、今後の人口減少や燃料需要原単位の変化（エネルギー転換や燃費向上等による、一人当たりの燃料消費量の減少）により、那賀町の燃料需要は今後減少が進み、例えばガソリンの場合、2030年には現在の約半分の量にまで減少するものとみられる。

油種別の将来燃料需要量の見通し（那賀町全体）

A：現在需要量 （推計結果）	油種	現在需要量（2019年）	単位
	ガソリン	3,600	KL
	軽油	3,000	KL
	灯油	1,400	KL

B：需要家増減率 （人口増減率） ※使う人がどのくらい減るか	油種	2019年	2020年	2030年	2040年	根拠
	ガソリン	100%	97%	67%	43%	20-79歳人口の増減
	軽油	100%	97%	67%	43%	20-79歳人口の増減
	灯油	100%	97%	72%	52%	総人口の増減

C：燃料需要原単位増減率 （エネルギー転換、燃費向上等） ※ひとりを使う量がどのくらい減るか	油種	2019年	2020年	2030年	2040年	根拠
	ガソリン	100%	98%	72%	54%	人口1人当たりの消費量変化
	軽油	100%	98%	98%	91%	人口1人当たりの消費量変化
	灯油	100%	100%	96%	90%	人口1人当たりの消費量変化

D：燃料需要量の増減率 （B×C） ※町全体でどのくらい減るか	油種	2019年	2020年	2030年	2040年	根拠
	ガソリン	100%	94%	49%	23%	20-79歳人口の増減
	軽油	100%	95%	66%	39%	20-79歳人口の増減
	灯油	100%	97%	69%	47%	総人口の増減

将来燃料需要量 （A×D） ※町全体での将来需要量	油種	2019年	2020年	2030年	2040年	単位
	ガソリン	3,600	3,401	1,755	830	KL
	軽油	3,000	2,855	1,986	1,169	KL
	灯油	1,400	1,356	969	655	KL

※油種別の想定需要家として、ガソリン、軽油は20-79歳人口、灯油は総人口を対象として推計

※燃料需要原単位増減率は、「平成29年度石油産業体制等調査研究（我が国の石油製品の長期需要見通しに関する調査）」における油種別の需要量予測をもとに、各年時の需要量見通しを当該年次の将来推計人口で除することで、人口当たりの原単位の変化率を算出。ガソリン、軽油は旅客車の需要量予測をもとに、灯油は家庭用灯油の需要量予測を用いている。

3. 地域の燃料需要及びニーズ ○地区別の燃料需要量と将来見通し

- 将来の燃料需要量について、さらに地区別に推計したところ、各地区とも今後大きく減少が進む。
- 特に高齢化率が高い上那賀、木沢、木頭では、ガソリンの場合、2030年には現在の半分以下まで減少するものとみられる。

油種別の将来燃料需要量の見通し（地区別）

将来燃料需要量 (A×D)	油種	2019年	2020年	2030年	2040年	単位
※町全体での将来需要量	ガソリン	3,600	3,401	1,755	830	KL
	軽油	3,000	2,855	1,986	1,169	KL
	灯油	1,400	1,356	969	655	KL

人口の地区別構成比		2019年	2020年	2030年	2040年
総人口	鶯敷	34%	34%	36%	39%
	相生	30%	30%	31%	31%
	上那賀	17%	16%	15%	14%
	木沢	6%	6%	5%	4%
	木頭	13%	13%	13%	11%
	計	100%	100%	100%	100%
20-79人口	鶯敷	35%	35%	38%	42%
	相生	30%	30%	32%	31%
	上那賀	16%	16%	14%	12%
	木沢	6%	6%	5%	4%
	木頭	13%	13%	11%	11%
	計	100%	100%	100%	100%

地区別将来需要量		2019年	2020年	2030年	2040年
ガソリン	鶯敷	1,248	1,198	669	348
	相生	1,093	1,031	560	258
	上那賀	575	537	247	104
	木沢	211	196	81	33
	木頭	473	440	199	88
	計	3,600	3,401	1,755	830
軽油	鶯敷	1,040	1,005	757	490
	相生	911	866	633	363
	上那賀	479	450	279	146
	木沢	176	165	91	46
	木頭	394	369	226	124
	計	3,000	2,855	1,986	1,169
灯油	鶯敷	481	467	352	255
	相生	420	408	297	206
	上那賀	232	224	148	90
	木沢	81	78	51	29
	木頭	185	179	121	75
	計	1,400	1,356	969	655

将来地区別需要量 (KL) (3油種計)

地区	2020年	2030年	2040年
鶯敷	2,670	1,778	1,092
相生	2,305	1,490	826
上那賀	1,210	674	340
木沢	439	222	108
木頭	988	547	287
那賀町	7,612	4,710	2,654

※町内需要量であり、想定販売量ではない

3. 地域の燃料需要及びニーズ ○災害時に必要となる燃料備蓄量

- 災害時を想定した燃料備蓄量については、①町民生活用の備蓄 ②行政庁舎等における非常用発電機用の備蓄 の2つの観点から必要量を検討した。

【備蓄想定日数】

- ①町民生活用の備蓄のうち、ガソリン、軽油については、避難時や物資調達時の自動車利用が想定されるが、民間備蓄が相当程度存在すると見込まれるため、1日の確保を想定する。灯油については、冬季の暖房や温水を確実に確保できるよう、7日分の確保を想定する。
- ②非常用発電機用については、一律、7日分（168時間）の確保を想定する。

施設	使用燃料	台数	タンク容量 (L)	稼働時間 (H)	燃費 (L/H)	必要稼働時間	必要燃料量 (L/台)	必要備蓄量 (L)
鷺敷庁舎	ガソリン	8	2.1	3.2	0.7	168	110	882
	ガソリン	1	12.0	7.6	1.6	168	265	265
	軽油	1	16.0	8.0	2.0	168	336	336
相生庁舎	ガソリン	1	2.3	3.2	0.7	168	121	121
	混合ガソリン	1	0.8	1.8	0.4	168	75	75
	ガソリン	2	3.6	3.4	1.1	168	178	356
上那賀庁舎	ガソリン	2	3.6	3.4	1.1	168	178	356
木沢庁舎	ガソリン	4	3.6	3.4	1.1	168	178	712
木頭庁舎	ガソリン	2	3.6	3.4	1.1	168	178	356
上那賀病院	ガソリン	1	40.0	3.0	13.3	168	2,240	2,240

地区	油種	必要備蓄量 (L)
鷺敷	ガソリン	1,147
	軽油	265
相生	ガソリン	551
上那賀	ガソリン	2,596
木沢	ガソリン	712
木頭	ガソリン	356

災害用燃料備蓄量の想定量

油種	地区	平時需要量 (KL)				ピーク率 (年間需要量に占めるピーク月需要量の割合)	平時ピーク月の月間需要量 (KL)				災害時備蓄用				非常用発電機稼働用		必要備蓄量合計 (KL)				
		2019年	2020年	2030年	2040年		2019年	2020年	2030年	2040年	災害時備蓄想定日数 (日)	2019年	2020年	2030年	2040年	必要稼働時間 (h)	必要備蓄量 (KL)	2019年	2020年	2030年	2040年
ガソリン	鷺敷	1,248	1,198	669	348	11%	134	128	72	37	1	4.5	4.3	2.4	1.2	168	1.1	5.6	5.4	3.5	2.4
	相生	1,093	1,031	560	258		117	110	60	28		3.9	3.7	2.0	0.9		0.6	4.4	4.2	2.5	1.5
	上那賀	575	537	247	104		62	57	26	11		2.1	1.9	0.9	0.4		2.6	4.6	4.5	3.5	3.0
	木沢	211	196	81	33		23	21	9	4		0.8	0.7	0.3	0.1		0.7	1.5	1.4	1.0	0.8
	木頭	473	440	199	88		51	47	21	9		1.7	1.6	0.7	0.3		0.4	2.0	1.9	1.1	0.7
	計	3,600	3,401	1,755	830		385	364	188	89		12.8	12.1	6.3	3.0		5.4	18.2	17.5	11.6	8.3
軽油 (自動車用)	鷺敷	624	603	454	294	11%	67	65	49	31	1	2.2	2.2	1.6	1.0	168	0.3	2.5	2.4	1.9	1.3
	相生	546	519	380	218		58	56	41	23		1.9	1.9	1.4	0.8		0.0	1.9	1.9	1.4	0.8
	上那賀	288	270	168	88		31	29	18	9		1.0	1.0	0.6	0.3		0.0	1.0	1.0	0.6	0.3
	木沢	106	99	55	28		11	11	6	3		0.4	0.4	0.2	0.1		0.0	0.4	0.4	0.2	0.1
	木頭	237	221	135	74		25	24	14	8		0.8	0.8	0.5	0.3		0.0	0.8	0.8	0.5	0.3
	計	1,800	1,713	1,192	701		193	183	128	75		6.4	6.1	4.3	2.5		0.3	6.7	6.4	4.5	2.8
灯油	鷺敷	481	467	352	255	21%	100	97	73	53	7	23.3	22.7	17.1	12.4	168	0.0	23.3	22.7	17.1	12.4
	相生	420	408	297	206		87	85	62	43		20.4	19.8	14.4	10.0		0.0	20.4	19.8	14.4	10.0
	上那賀	232	224	148	90		48	46	31	19		11.3	10.8	7.2	4.4		0.0	11.3	10.8	7.2	4.4
	木沢	81	78	51	29		17	16	11	6		3.9	3.8	2.5	1.4		0.0	3.9	3.8	2.5	1.4
	木頭	185	179	121	75		39	37	25	16		9.0	8.7	5.9	3.7		0.0	9.0	8.7	5.9	3.7
	計	1,400	1,356	969	655		291	282	202	136		67.9	65.8	47.0	31.8		0.0	67.9	65.8	47.0	31.8

地区	油種	必要備蓄量合計 (KL)			
		2019年	2020年	2030年	2040年
鷺敷	ガソリン	5.6	5.4	3.5	2.4
	軽油	2.5	2.4	1.9	1.3
	灯油	23.3	22.7	17.1	12.4
相生	ガソリン	4.4	4.2	2.5	1.5
	軽油	1.9	1.9	1.4	0.8
上那賀	ガソリン	4.6	4.5	3.5	3.0
	軽油	1.0	1.0	0.6	0.3
木沢	ガソリン	1.5	1.4	1.0	0.8
	軽油	0.4	0.4	0.2	0.1
木頭	ガソリン	2.0	1.9	1.1	0.7
	軽油	0.8	0.8	0.5	0.3

3. 地域の燃料需要及びニーズ ○町内燃料総需要量（見通しと課題）

- 町内需要量は、災害時の必要備蓄量を踏まえた、町内の燃料総需要量は以下のとおりである。
- 2030年時点で、鷺敷地区を除く各地区とも、既存SSのタンク容量が月間需要量を上回る規模となる。
- 町民の町内SS利用率も考慮すると、上那賀、木沢、木頭の各地区では、既存SSの存続が可能な販売量を確保することが難しくなるものとみられる。
- これらから、当面は各地区1箇所以上のSSの維持を目指しつつ、山間部については、将来的にSSの維持が難しいという前提に立った検討を行うことが必要である。
- また、中長期的には、全町的な連携と補完関係による燃料供給体制を構築することも念頭においた検討が必要である。

地区別将来需要量		町内需要量 (KL/年)			災害時必要 備蓄量
		2020年	2030年	2040年	
ガソリン	鷺敷	1,198	669	348	6
	相生	1,031	560	258	4
	上那賀	537	247	104	5
	木沢	196	81	33	1
	木頭	440	199	88	2
	計	3,401	1,755	830	18
軽油	鷺敷	1,005	757	490	2
	相生	866	633	363	2
	上那賀	450	279	146	1
	木沢	165	91	46	0
	木頭	369	226	124	1
	計	2,855	1,986	1,169	7
灯油	鷺敷	467	352	255	23
	相生	408	297	206	20
	上那賀	224	148	90	11
	木沢	78	51	29	4
	木頭	179	121	75	9
	計	1,356	969	655	68
計	鷺敷	2,670	1,778	1,092	31
	相生	2,305	1,490	826	27
	上那賀	1,210	674	340	17
	木沢	439	222	108	6
	木頭	988	547	287	12
	計	7,612	4,710	2,654	93

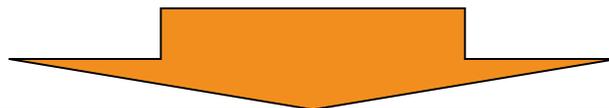
合計 (KL/年)			合計 (KL/月)		
2020年	2030年	2040年	2020年	2030年	2040年
1,203	674	353	100	56	29
1,036	564	262	86	47	22
541	251	108	45	21	9
197	82	34	16	7	3
442	202	90	37	17	8
3,419	1,773	848	285	148	71
1,008	759	492	84	63	41
868	635	365	72	53	30
451	280	147	38	23	12
165	92	46	14	8	4
370	227	125	31	19	10
2,861	1,993	1,176	238	166	98
490	375	278	41	31	23
428	317	226	36	26	19
235	160	102	20	13	8
82	54	33	7	5	3
188	130	84	16	11	7
1,424	1,037	723	119	86	60
2,701	1,809	1,124	225	151	94
2,332	1,517	853	194	126	71
1,227	691	357	102	58	30
445	228	114	37	19	9
1,000	559	299	83	47	25
7,705	4,803	2,747	642	400	229

現在SSのタンク容 量 (KL)	回転数 (需要量/タンク容量)		
	2020年	2030年	2040年
-	-	-	-
56	1.5	0.8	0.4
23	2.0	0.9	0.4
20	0.8	0.3	0.1
33	1.1	0.5	0.2
132	2.2	1.1	0.5
-	-	-	-
38	1.9	1.4	0.8
17	2.2	1.4	0.7
20	0.7	0.4	0.2
30	1.0	0.6	0.3
105	2.3	1.6	0.9
-	-	-	-
36	1.0	0.7	0.5
20	1.0	0.7	0.4
20	0.3	0.2	0.1
37	0.4	0.3	0.2
113	1.1	0.8	0.5
-	-	-	-
130	1.5	1.0	0.5
60	1.7	1.0	0.5
60	0.6	0.3	0.2
100	0.8	0.5	0.2
350	1.8	1.1	0.7

4. 那賀町における燃料供給体制維持方策 ○基本方針

○需要やニーズを踏まえた課題

- ✓ 那賀町では、自らが居住する地区内のSSから燃料を購入する割合が高い。
- ✓ 今後、地域の燃料需要は大きく減少する見通しであり、既存の形態のSSの存続が難しい規模まで減少する可能性がある。
- ✓ 町内で、唯一SSが無い鷺敷地区では、仮に地区内にSSが開設された場合、地区住民の半数以上が積極的な利用意向を持っており、SS開設に一定のニーズが確認できた。



○燃料供給体制維持の基本方針

- 町内5つの地区単位で、一定の燃料供給体制を維持・確保する。
- 現在SSが無い鷺敷地区では、地域住民の利便性確保と、災害時の備蓄・供給拠点としての役割を担う、新たなSSの開設を目指す。ただし、現在、鷺敷地区の住民は他の地区内のSSや町外のSSにおいて給油している実態を踏まえて、新たなSSの具体的な案の策定にあたっては、あらためて、他の地区内の事業者や石油商業組合の理解を得ることとする。
- 鷺敷地区以外については、既存のSSが引き続き維持されるよう、官民一体となって、地域住民の地元SSの利用を促進していく。
- 具体的な燃料供給体制維持の方法については、将来の燃料需要の見通し、昨今の関連保安規制の見直しに関する議論の動向等を踏まえ、適切な方策・運営形態を採り入れていく。

4. 那賀町における燃料供給体制維持方策 ○燃料供給体制維持方策

○燃料供給体制維持方策

① 鷺敷地区におけるローコスト型SSの新設

- 鷺敷地区において、住民の利便性確保と災害対応の観点から、新たなSSの新設を目指す。
- 新設にあたっては、将来の燃料需要の見通しを踏まえ、近年、保安規制の見直しによる導入可能性が検討されている地上型タンクによるローコスト型SSの導入を念頭に置く。
(保安規制の緩和が前提であることから、必要に応じて、町として規制緩和の要望も行っていく。)

② 既存の町内SSの利用促進

- 地区単位での燃料供給体制を引き続き維持していけるよう、行政を中心として、既存SSの利用促進を町民に広く呼び掛けていく。
- また、町民の利用利便性向上につながるSSの複合機能化など、SSの経営体力維持に向けた支援も行っていく。

③ 将来を見据えた、新たな燃料供給方策の導入

- 将来的に、さらなる需要減少によって既存SSの存続が難しくなることを想定し、災害備蓄や巡回給油を念頭に置いたタンクローリー巡回型SSの導入など、地域の実情に沿ったローコストな燃料供給体制を検討する。
- 導入にあたっては、関連保安規制の緩和の動向を見ながら、地域の需要動向及び既存事業者の営業状況に十分配慮し、導入の時期やエリアを検討していく。また、設置場所、ルート、運営方法等についても、地域の実情やニーズに配慮しつつ、採算性、利便性を踏まえた検討を行う。
- また、住民の生活インフラとして地域に根差した運営がなされるよう、住民主体による運営の可能性等についても検討や支援を行っていく。

4. 那賀町における燃料供給体制維持方策 ○ 鷺敷地区におけるローコストSSの導入

○ 鷺敷地区において導入を想定するSS形態の検討

【採算面からの検証（コスト試算）】

※この試算は、SS形態の違いによるコスト比較をわかりやすく把握するために行ったものであり、その数値は、実際の経営見通しや採算性を示すものではない。実際の導入に際しては、その時点の需要動向や経費動向を含む諸条件を厳格に精査・検討したうえで、採算性等の見直しを行う必要がある。

<地下タンクの場合>

- 全期間の粗利益の合計は約16100万円、費用の合計は約18600円で、差し引き営業収支は約2500万円の赤字となる。
- キャッシュフローで見ると、借入金完済後一時黒字化するが、ほぼすべての期間で単年度赤字であり、全体では現在価値で約2300万円の赤字となる。加えて、廃業時には、地下タンクの埋戻し等の工事費が必要となる。

⇒コスト負担が大きく、赤字となる可能性は高い。販売量の減少にともない収支は一層厳しくなる。

<地上タンクの場合>

- 全期間の粗利益の合計は約16100円、費用の合計は約15300万円で、差し引き営業収支は約800万円の黒字となる。
- キャッシュフローで見ると、借入金完済前に単年度赤字が生じるが、多くの期間で単年度黒字であり、全体では現在価値で約300万円の黒字となる。廃業時は、地上タンク（コンテナ）の移設再利用が可能であり、中古販売も可能。

⇒コスト負担は地下タンクより少なく済み、販売量の減少に対応したローコスト運営が期待される。

【適正規模面の検証】

<地下タンクの場合>

- 30KLタンクとした場合、災害用備蓄量を常時確保したうえでの循環を考慮すると、月間の仕入回数は当初は4回程度であるが、将来は1回程度と想定。

<地上タンクの場合>

- 18KLタンクとした場合、災害用備蓄量を常時確保したうえでの循環を考慮すると、月間の仕入回数は当初は8回程度要するが、将来は2回程度と想定。

- 将来需要量を踏まえた運営の持続可能性を考慮すると、地上型タンクによるローコストSSが望ましい。
- また、防災拠点としての役割も考慮すると、町が整備し、民間が運営する公設民営による運営が望ましい。

4. 那賀町における燃料供給体制維持方策 ○山間部における巡回型SSの導入

○新たな燃料供給方策としての巡回型SS（タンクローリーによる巡回給油）等の検討

<巡回型SSのメリット>

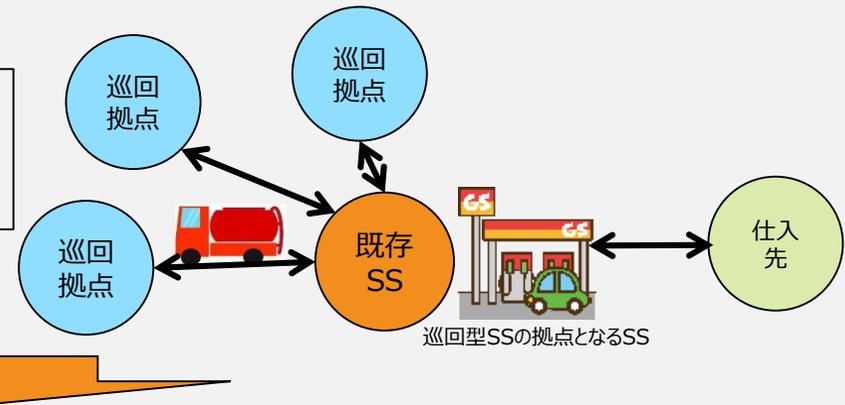
- 巡回型SSを導入するエリアは、基本的に販売量が少ないエリアであり、導入コスト（設備投資）をどのように回収していくかが大きな課題といえるが、一方で、**需要量にあわせて巡回回数を変動させることなど、運営上の柔軟性は高く、（導入コスト回収後、）長期的視点からはコスト効率は高い方策**といえる。
- また、需要に対して機動的に対応できるため、当面は、災害用備蓄用として配置し、将来的に巡回給油を行うことも考えられる。

<巡回型SS導入にあたっての留意点>

- 検討にあたっては、タンクローリー（既存車両の利用可能）や巡回型対応の計量機（ローリー直結型計量機や可搬型計量機など）の導入コストのほか、巡回頻度、配送距離などを考慮しながらランニングコストを精査・検討し、どういった運営体制、サービスレベルで経営が成立するか、必要需要規模を踏まえながら多角的な検討・検証を行う必要がある。

<巡回型SSのコストに影響を与える主要要素>

- ★巡回箇所数、巡回場所 →地上設備導入コスト、配送費（配送距離）に影響
- ★ローリー規模 →ローリー導入コスト、巡回回数、配送費（燃費）に影響
- ★巡回回数 →人件費（日数）、配送費に影響



- 将来の更なる需要量減少が見込まれる中で、柔軟な燃料供給体制を柔軟に維持していくためには、巡回型SSの導入も含む様々な燃料供給体制の選択肢について、地域の実情や既存事業者の販売量への影響を考慮し、かつ、選択肢ごとの採算性について検証しながら検討を進めていくことが望ましい。

【参考】鷺敷地区にSSを開設した場合の販売量見通し

【販売量の検討条件】

(取扱油種)

- ガソリン、軽油のみとする・・・灯油販売は、現状で鷺敷地区内の販売店があることや、配達利用者もあることから、取扱いを想定しない。

(町内利用者)

- ガソリン、自動車用軽油の町内需要量に、店頭販売率（※1）、鷺敷SS利用率（※2）を乗じることにより、鷺敷SSの販売量を推計する（鷺敷SS想定販売量 = 町内需要量 × 店頭販売率 × 鷺敷SS利用率）。
 - ※1ガソリンはすべて店頭販売（100%）、軽油は既存SSの店頭販売割合を踏まえ40%と想定
 - ※2鷺敷SS利用率・・・町民アンケートにおいて、「もし、鷺敷地区にSSが新設（再開）された場合、あなたはどの程度利用すると思いますか。」との設問に対し、「よく利用すると思う」と回答した人の利用率を75%、「たまに利用すると思う」と回答した人の利用率を10%と想定

(町外利用者)

- 町外からの通勤者のうち、鷺敷地区を経由するとみられる徳島市、阿南市、小松島市からの通勤者（1人1台）を対象とする。通勤利用を対象とするため、すべてガソリンとする。
- これら通勤者の鷺敷SS利用率は、アンケート調査の町外SS利用率を参考に、20%と設定する。
- 1台当たりの給油量は、アンケート結果の給油量を参考に、30L/月とする。
- 太龍寺等の観光利用者については、季節変動が大きいので、考慮しない。

鷺敷SSの販売量見通し①（町内利用者への想定販売量）

ガソリン		鷺敷SS想定販売量							
居住地区	地区需要量 (2030年)	店頭販売率	「よく利用すると思う」と 回答した人の割合	「よく利用すると思う」と 回答した人の利用率	「たまに利用すると思う」と 回答した人の割合	「たまに利用すると思う」と 回答した人の利用率	2020年	2030年	2040年
鷺敷	669	100%	53.3%	75%	28.4%	10%	512.4	286.1	148.8
相生	560	100%	9.9%	75%	27.5%	10%	105.3	57.1	26.3
上那賀	247	100%	3.4%	75%	16.5%	10%	22.6	10.4	4.4
木沢	81	100%	2.6%	75%	19.5%	10%	7.6	3.1	1.3
木頭	199	100%	5.1%	75%	12.7%	10%	22.3	10.1	4.5
年間販売量							670.1	366.8	185.1
参考：月販							55.8	30.6	15.4

軽油		鷺敷SS想定販売量							
居住地区	地区需要量 (2030年)	店頭販売率	「よく利用すると思う」と 回答した人の割合	「よく利用すると思う」と 回答した人の利用率	「たまに利用すると思う」と 回答した人の割合	「たまに利用すると思う」と 回答した人の利用率	2020年	2030年	2040年
鷺敷	757	40%	53.3%	75%	28.4%	10%	233.8	129.5	83.8
相生	633	40%	9.9%	75%	27.5%	10%	42.3	25.9	14.8
上那賀	279	40%	3.4%	75%	16.5%	10%	6.7	4.7	2.5
木沢	91	40%	2.6%	75%	19.5%	10%	1.9	1.4	0.7
木頭	226	40%	5.1%	75%	12.7%	10%	6.3	4.6	2.5
年間販売量							290.9	166.1	104.3
参考：月販							24.2	13.8	8.7

鷺敷SSの販売量見通し②（町外利用者（通勤者）への想定販売量）

居住地	流入者数（人） (通勤者)
阿南市	440
徳島市	129
小松島市	74
計	643

643人（台）
 × 鷺敷SS利用率20%
 × 1台当たり給油量29.5L/月
 = 3.8KL/月（45.5KL/年）

鷺敷SSの想定販売量（KL/年）

油種	2020年	2030年	2040年
ガソリン	716	412	231
軽油	291	166	104
計	1,007	578	335
月販	84	48	28

【参考】鷺敷地区にSSを開設した場合のSS形態別コスト試算条件

【コスト試算条件】

(比較検討するSS形態)

- 従来型の地下タンクによるSSのほか、現在保安規制見直しの検討が行われている、地上タンクによるSSについて検討を行う。
 - 販売量見通しから、月販50KL以下でも経営維持可能な形態として、小規模、ローコストSSを前提とする。

(コスト試算期間)

- 2022～2040年までの19年間で試算期間とする。

(各種要件)

○共通事項

<運営>

店舗人員：1.5人
人件費：30万円/月/人
原価率：90%
減価償却期間：8年

<土地>

敷地面積：200㎡
土地価格：25000円/㎡

<借入>

借入金返済期間：10年
借入金利：3.5%
社会的割引率：4%

○地下タンクSS

<導入費>

施設導入費 5,000万円

<販売費・一般管理費>

人件費	5,400千円/年
法定福利費	810千円/年
光熱費	200千円/年
修繕維持費	200千円/年
事務経費	500千円/年
減価償却費	6,250千円/年
合計	13,360千円/年

<タンク容量>

ガソリン：20KL 軽油：10KL

<その他>

廃業時には、タンクの埋戻し工事が必要
(概ね1000万円以上)

○地上タンクSS

<導入費>

施設導入費 2,500万円

<販売費・一般管理費>

人件費	5,400千円/年
法定福利費	810千円/年
光熱費	100千円/年
修繕維持費	100千円/年
事務経費	250千円/年
減価償却費	3,125千円/年
合計	9,785千円/年

<タンク容量>

ガソリン：12KL 軽油：6KL

<その他>

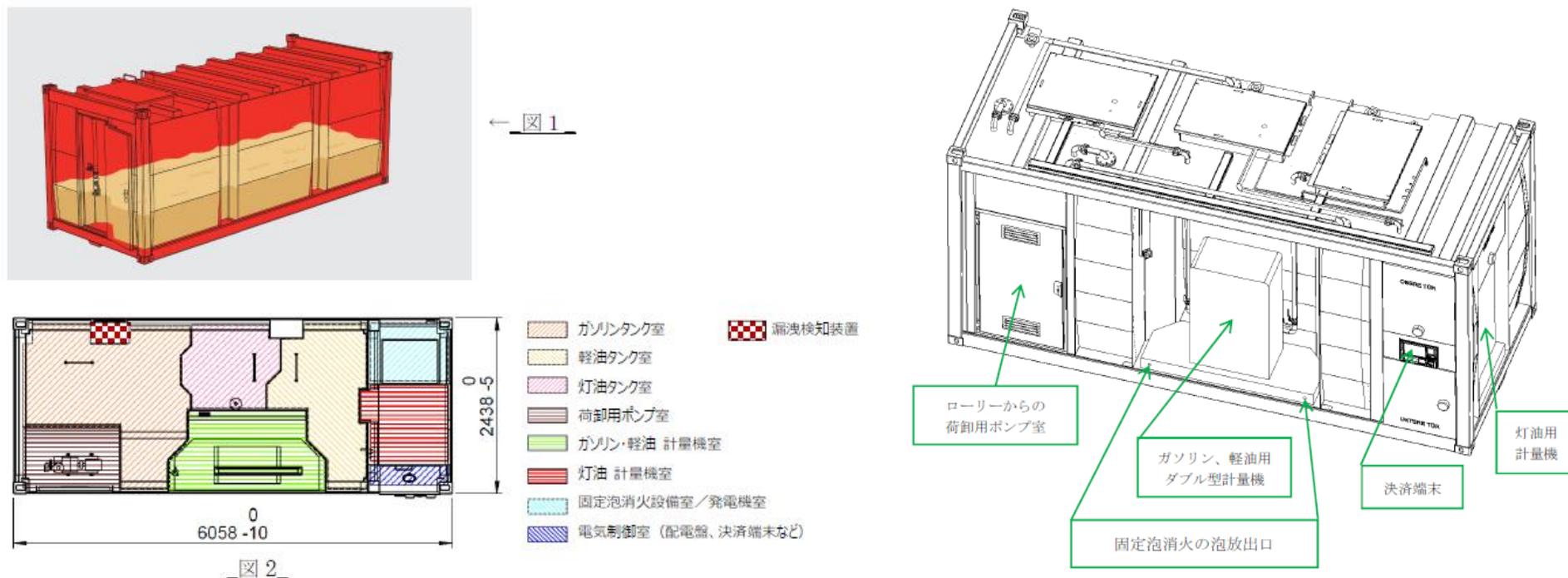
廃業時、地上タンク（コンテナ）の移設や再利用（中古販売）が可能

【参考】地上型タンク式SSのイメージ

○想定する施設・設備の概要

- ・SS過疎地への導入が想定されるローコストSSとして、仮設コンテナ形態の地上タンク式SSを想定する。
- ・ISO 規格の海上コンテナ仕様のタンクであり、イメージは以下のとおりである。

図 地上型タンクの概要



出典：平成30年度 SS 過疎地(自治体)向け仮設コンテナ給油所技術検証報告書

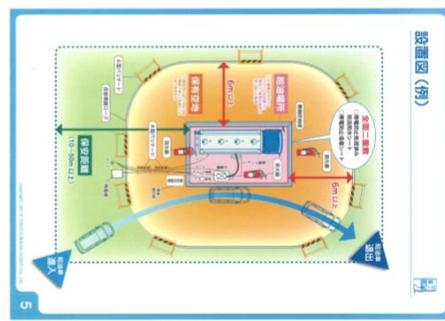
【参考】巡回型SS（タンクローリーによる巡回給油）の施設・設備イメージ

○想定する施設・設備の概要

- 移動式貯蔵所（タンクローリー）が定期的に巡回し、可搬式計量機を直結することで、給油所としての機能を確保する
- 計量機は、タンクローリーとの直結が可能な形態のものを設置する
- タンクローリーは、既存の車両を利用することが可能である。
- このほか、給油時には、養生シートや油吸着剤による流出防止措置等を講じることが必要となっている。
- 導入にあたっては、車両、計量機といったハードのほか、効率的かつ利用者の需要・ニーズに適した巡回ルートの設定も重要な検討事項となる。

仕組みとポイント

- 日常使用する給油ホースで接続するだけ
- タンクローリーに積載された燃料を安全に取扱うことができる
- 可搬式なので必要な場所に移動して設置することができる
- 灯油、軽油だけでなくガソリンにも対応
- 給油操作は普段慣れ親しんだ方法と全く同じ
- 給油量は必要な数量に応じたタンクローリーを準備して対応



出典：経済産業省資源エネルギー庁「次世代燃料供給インフラ研究会」資料（横田瀝青株式会社提供資料）より

【参考】町民への町内SS利用促進策のイメージ

- 例えば、ガソリン、灯油などの油類の販売にあたり「町民価格」を設定。
- 町民価格での提供にあたり、会員（現金会員、掛売会員）になることを前提とする。その際、現金会員用、掛売会員用のカードを発行し、顧客の囲い込みを図る。

町民価格での提供にあたり会員カードを発行（現金会員、掛け会員）



町民価格は表示価格より1～2円程度安価で提供



(参考) 奈良県川上村のケース 会員募集チラシ

- 特に利用率が低い曜日などにおいては、「町民特売デー」設定し、町民価格よりさらに割引。

(参考) 奈良県川上村のケース
広報かわかみに掲載された案内文

「村民特売デー」を実施します！

6月から毎週金曜日は、「村民特売デー」を開催します。現金通常3円引きのところ、毎週金曜日はさらに1円引き！（配達を除く）どうぞご利用ください。
土曜日・祝日も営業しています。日曜日のみお休みです。

【問い合わせ先】

かわかみSS TEL 52-0715
店長：いわた
スタッフ：かめい・うえひら

【参考】住民運営によるコミュニティ型SSのイメージ

【地域コミュニティによる共同体的運営（地元有志による運営支援組織の設立）による人件費削減】

- 地域コミュニティ（周辺住民等）を主体としてSS運営支援組織（仮称「〇〇SSを守る会」）を設立

<取組、活動イメージ>

- ✓ メンバーは、主にSS周辺の住民、元SSスタッフ等で構成
- ✓ 主要メンバーは丙種資格を保有し、SSスタッフ不在時でも給油を可能とする。（立ち合いは不可）
- ✓ 一般客が給油等を行う場合は、資格保有するメンバーが代理で給油
- ✓ AIやIOTを活用した、監視カメラ、遠隔操作システム（他地区の既存SSと接続）の導入等により、より少ない人員でのスタンド運営を図る（規制緩和、技術開発が必要）
- ✓ メンバーは、防災連絡員など、地域の安全・見守りに関する役割も兼務できることが望ましい（集落支援員等の活用可能性も検討）

【その他】

- SS利用は、利用カード保有者に限定し、キャッシュレス化
- 巡回型SSの導入とあわせて、地区内の利便性の高い施設を集約して利便性をより向上

監視カメラ、遠隔操作等により監視体制、安全性を確保
（カメラで撮影した画像から利用者の動きをAIが読み取り、人の代わりに給油の許可を判断）

キャッシュレス化、カードロック等により安全性、利便性を確保

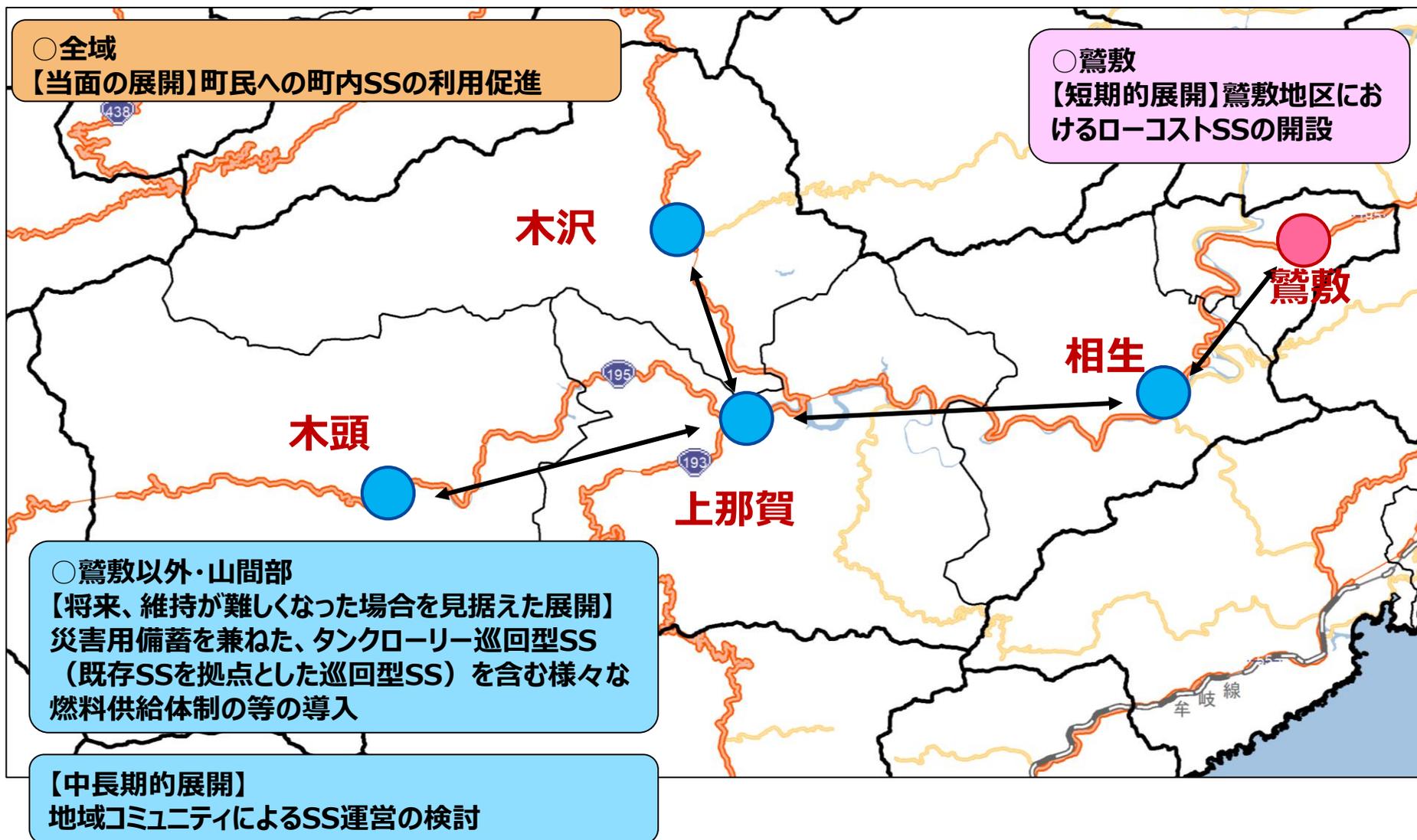
<支援組織メンバー（資格保有者）による給油>
 ・利用機会が多い近隣住民は、運営支援組織に参画し、自らが資格を保有して、自らが給油（町による資格取得支援も検討）
 ・認証システム、キーロック等によって本人特定
 <一般利用者の給油>
 ・営業日（週2～3日）、時間（午前、午後等）を定めてSSスタッフが常駐し、営業。または、運営支援組織構成員が給油



免状区分	危険物の取扱	立会い ※無資格者（一般客）の給油 ※ローリーからの荷卸 等
甲種	○	○
乙種	○ 免状を取得した類のみ	○ 免状を取得した類のみ
丙種	○ 第4類の特定の危険物のみ	×

那珂町における燃料供給体制維持の将来像

【基本方針】各地区単位で、燃料供給体制を維持



5. 燃料供給体制維持のアクションプラン

	主体	2020	2021	2022	～	2025	～	2030	～	
鷺敷地区SS開設										
検討・計画・設計・整備	那賀町	関連保安規制の動向を見ながら推進 ----->								
開業・運営	民間		管理・運営は民間への委託等を想定 ----->							
町民利用促進策										
割引、町民価格等	那賀町	検討 ----->	実施（目標と期限を持って実施） ----->							
その他複合化支援等	那賀町	検討 ----->	実施（目標と期限を持って実施） ----->							
他の地区の燃料供給体制										
検討	那賀町	既存SSの動向を見ながら、検討を継続 ----->								
住民コミュニティによる運営										
運営支援組織設立検討	住民組織等				既存SSの営業状況、住民ニーズ等を見ながら実施・展開 ----->					